

カリキュラムポリシー

カリキュラム (curriculum) とは、ラテン語の currere、すなわち「走るコース」を意味する言葉で、日本においては現在では「教育課程」と同義語として用いられる言葉である。本学では、かなり早い段階から、他校に先駆けて6年一貫教育を柱とする独自のカリキュラムが構築されてきた。この間、時代の流れは、医学教育の在り方へも様々な課題を投げかけ、その都度、あるべき医学教育の姿を探求しつつ、カリキュラムを改変しながら教育にあたり、出来るだけのゆとりと充実性を求めてきた。しかしながら、最近の急激な医学・医療の進歩に伴い、文部科学省が医師となるために規定した「コア・カリキュラム」に盛り込まれた必修学習内容は膨大な量となり、同時に、現在、医師に求められる生命倫理観や社会的要請も遙かに厳しいものとなってきており、さらなる努力が求められている。

こうした教育内容の重量化や変容は、ともすれば講義や実習を受講する医学生にとって重圧となり学習意欲を削ぐことになる危惧もある。現在、本学では、これらの問題点を正面で捉えながら、医学生として強い自覚と意欲の下に、いかなる状況においても対応することの出来る根本的、基本的な力を身につけ、その力を様々な応用性に活かせる能力を身につけることのできるより良い教育体制を整備して行くことを常に協議・検討し、実施すべく努力している。このような本学における医学教育カリキュラム検討の結果として、現在以下のような内容を6年一貫教育として実施している。

入学直後の第1学年次では、まず理科の未受験科目を入学直後より学習させ、知識の均一化を図った後にそれぞれの実習に入るとともに、「臨床看護業務実習」や「医学入門」、「死、介護、告知」など医療が抱える問題提起をゲストスピーカーにして頂きそれを教育陣とともに考える「特別プログラム」を実施し、「医学」とはなにか、「医師になるということはどういうことか」を考える機会を与えている。また、第3学年次の基礎医学教室における研究体験である基礎配属、4年次の臨床系コース講義や少人数教育 (Small Group Learning : SGL)、そして5年次からは実際の患者さんから学ぶ教育である臨床実習 (Bed Side Learning : BSL)、それに続く第6年次1学期の選択制BSLなど多彩なカリキュラムが用意されている。この選択制BSLでは海外の提携校などにおける積極的な海外研修も始まり、学生達の学習意欲も高まっている。最近ではSGLをさらに各学年に拡大し、「自ら課題を探し、自ら解決する」力の習得に、6年間を通して経験できるように工夫を加えている。また、新しい取り組みとして、予習重視型の教育システムであるTBL (Team Based Learning) を導入し、学ぶことへの集中度を高める試みを行っている。

現在、教育委員会を中心に、まずは臨床系のカリキュラムとして、コース講義、BSLなどのより現実に即した充実を目指した改定を進めており、それに伴って基礎科学、基礎医学カリキュラムの見直し作業も開始されつつある。これらは、入学試験によって選抜した優秀な学生を、入学時の「医学を学び良い医師になりたい」というモチベーションを如何に維持・向上させ、優秀な医師・研修医として卒業させる教育を構築するという基本概念に基づくものである。

将来、このような教育を通し、我が日本医科大学から人間味溢れ、かつ研究心を有する素晴らしい医師・医学者を、多数、社会に輩出出来る事を期待している。

平成24年4月

教育委員会委員長 小澤一史

教授要項の改訂にあたって (X)

医科大学あるいは医学部の理念は“良い医師を育成する”ことである。大学設置基準の改正が施行されて、教育課程は各大学の独自性を尊重した大幅な自由化が採用されることとなった。これを受けて、医科大学は6年間を通じて自由にカリキュラムを編成することができることになり、良い医師の養成はそれぞれの大学に委ねられることになったのである。一方、医学教育は医学・医療の進歩と確固とした生命倫理観を持つ医師の養成を強く望む社会の要求に対応して常に改訂・改革が迫られている。本学においてもこれらに対応して卒前の医学教育のあるべき姿について弛むことなくカリキュラムの改善などを行ってきた。

医学は学生諸君が自ら学ば（learn）なければならないもので、教員が教える（teach）ことは僅かである。医学部の教員の役割は、的確な医学知識の教授や医学生としての生活の指導とともに学生諸君の自主的な学習意欲をたかめ学習の道標を与え動機づけをすることにある。このような観点から、基本的医学知識の教授のみならず、学生諸君が自主的に学習し、課題を解決する能力の育成を目指してカリキュラムを抜本的に改訂してきた。最近のカリキュラムの特徴は、必修科目の取得、少人数教育、基礎配属（従来の自主学習）、臨床実習を大幅に増やしたことである。また、基礎医学と臨床医学のカリキュラムでは水曜日の午後は学生が自主的に学習出来る時間帯となっていたが、基礎科学も含め、未取得科目や基礎学力向上のための履修や補習などにも積極的に用いることとした。新カリキュラムは平成 22 年度入学生より導入されるが、その導入に伴い必要に応じ旧カリキュラムの変更も行った。基礎科学、基礎医学、臨床医学のカリキュラムの主たる改訂点は以下のようなものである。

基礎科学は1学年及び2学年の一部とし、選択科目制の見直しとともに、選択必修科目制の導入、それに伴う取得単位数などの大幅な見直しを行った。3 学年では、基礎医学－臨床医学連携型カリキュラムを企画し、臨床系コース講義や CBT の理解に繋がるカリキュラムとして導入した。基礎配属に関しては、基礎配属での実施内容の把握や評価が可能な改定を取り入れた。また、3 年終了時には、1 年次から 3 年次までの全ての試験科目に合格していることが、4 年生への進級条件となった。一方、留年した場合、全科目再履修、再受験し、合格することが必要となり、この留年の規定に関しては平成 21 年度以前に入学した学生にも適応することになった。

今後、試験制度や臨床医学系のカリキュラムについても、順次改定を進めてゆく予定である。過去、カリキュラムの作成に向けて最善の努力が続けられてきたが、その時代の医学・生物学の驚異的な進歩と医療を取り巻く社会の多彩な要求に対応して、医学教育も柔軟で迅速に改善対応する必要がある。したがって、生き物であるカリキュラムは不断の自己点検と評価の下、改善をし続ける必要があり、まさに、現在、大きなカリキュラム改革の時機を向かえている。すでに第 3 学年のコース講義の見直し作業がほぼ終わり、平成 25 年からは新しい組み合わせでのコース講義が始まる予定である。また、BSL の充実化を目指して、これも鋭意検討中で、近くその骨格が完成する予定である。

平成 24 年 4 月

教育委員会

目 次

学事予定表.....	1
学科目名・臨床医学コース名.....	2
授業時限配当表.....	3
試験時期一覧表.....	8
授業時間割表.....	10
試験等に関する細則.....	14
微生物学・免疫学.....	19
衛生学.....	27
薬理学.....	33
病理学総論 病理学講座 解析人体病理学、統御機構・腫瘍学.....	41
法医学.....	47

平成24年度 学事予定表 (平成24年4月～平成25年3月)

年 月	曜 日							学 年						
	日	月	火	水	木	金	土	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
平成二十四年(二〇二二年)	四月	1	2	3	4	5	6	7	4/5 入学式(講堂)	4/6 ガイダンス	4/1~4/10 春季休業	4/5 第一学期講義開始	4/6 BSLオリエンテーション 午前9時	4/2~事前健康診断
		8	9	10	11	12	13	14	4/9~4/10 医学教育カリ 電子学習記録				4/13 選択BSLオリエン テーション	
		15	16	17	18	19	20	21	4/11 新丸子校舎に関する ガイダンス	4/11 第一学期授業(前半6週)	4/11			
		22	23	24	25	26	27	28	4/12 4/15 創立記念日				4/9 BSL開始	午後2時
	29	30						↑ 4/21 体育大会	4/25 第2~6学年定期健康診断(午後の授業はなし)				4/17 選択BSL開始	
	五月	6	7	8	9	10	11	12	4/28 BLS	5/9 学生アドバイザーの日(全学年)			5/9 学生アドバイザーの日(全学年)	
		13	14	15	16	17	18	19	5/19 解剖慰霊祭					
		20	21	22	23	24	25	26	5/23 第1学年定期健康診断	5/23 第一学期授業 (後半6週)	5/22		5/20 実力試験	5/20 実力試験
		27	28	29	30	31			5/24 第一学期授業 (後半6週)	5/23 第一学期授業 (後半6週)				
	六月	3	4	5	6	7	8	9						6/9 選択BSL終了
		10	11	12	13	14	15	16						6/13
		17	18	19	20	21	22	23						6/16
24		25	26	27	28	29	30						臨床能力評価試験	
七月	1	2	3	4	5	6	7	7/4 講義終了	7/6 講義終了	7/3 講義終了	7/6 講義終了			
	8	9	10	11	12	13	14	7/5~7/18	7/9 第一学期末試験期間	7/4~7/18	7/9		7/12~7/14	
	15	16	17	18	19	20	21	第一学期末試験期間		第一学期末試験期間			総合試験(第1回)	
	22	23	24	25	26	27	28							
八月	5	6	7	8	9	10	11					8/4 BSL終了		
	12	13	14	15	16	17	18	夏季休業	夏季休業	夏季休業	夏季休業	夏季休業	夏季休業	
	19	20	21	22	23	24	25							
	26	27	28	29	30	31								
九月	2	3	4	5	6	7	8					9/3 BSL開始	9/6~9/8	
	9	10	11	12	13	14	15	臨床看護実習	9/10 第二学期授業開始	9/10 第二学期授業開始	9/10 第二学期講義開始	9/17	総合試験(第2回)	
	16	17	18	19	20	21	22	9/10 第二学期授業 (前半6週)				総合試験(第1回)		
	23	24	25	26	27	28	29							
十月	7	8	9	10	11	12	13							
	14	15	16	17	18	19	20	10/18	10/18	10/18	10/18			
	21	22	23	24	25	26	27		10/19~10/22 秋季休業期間		10/22~ 秋季休業期間		10/23~10/25(予定)	
	28	29	30	31				10/23 第二学期授業 (後半6週)	10/23	10/23 第二学期授業 (後半6週)	10/23	BSL	総合試験(第3回)	
十一月	4	5	6	7	8	9	10							
	11	12	13	14	15	16	17							
	18	19	20	21	22	23	24						11/15~11/17(予定)	
	25	26	27	28	29	30			学生アドバイザーの日(全学年)				総合試験(第4回)	
十二月	2	3	4	5	6	7	8	12/3 講義終了	12/3 講義終了	12/3 講義終了	12/3 講義終了			
	9	10	11	12	13	14	15	12/4 第二学期末試験期間	12/4 第二学期末試験期間	12/4 第二学期末試験期間	12/4			
	16	17	18	19	20	21	22					12/29 BSL終了		
	23	24	25	26	27	28	29					冬季休業		
平成二十五年(二〇二三年)	一月	6	7	8	9	10	11	12					1/7 BSL開始	
		13	14	15	16	17	18	19	1/10 第三学期授業	1/10 第三学期授業	1/7 第三学期授業開始	1/9 第三学期講義開始		
		20	21	22	23	24	25	26				1/11 CBT(予定)		
		27	28	29	30	31								
	二月	3	4	5	6	7	8	9						2/9 医師国家試験
		10	11	12	13	14	15	16	2/20 講義終了	2/20 講義終了		2/23 OSCE(予定)	2/23 BSL終了	2/10(予定)
		17	18	19	20	21	22	23						2/11
		24	25	26	27	28	2/21~3/14	2/21~3/14		2/25~3/9				
	三月	3	4	5	6	7	8	9					3/8 総合試験(第2回)	3/7 卒業式(予定)
		10	11	12	13	14	15	16			3/6			
		17	18	19	20	21	22	23			3/7~3/15			
		24	25	26	27	28	29	30			第二学期末試験期間			

学 科 目 名

臨床医学コース名

基礎科学	基礎医学	臨床医学	
生物学	解剖学(分子解剖学)	内科学	臨床医学総論
物理学	解剖学(生体構造学)	精神医学	循環器
化学	生理学(システム生理学)	小児科学	消化器
数学	生理学(生体統御学)	放射線医学	呼吸器・感染・腫瘍
スポーツ科学	生化学・分子生物学(代謝・栄養学)	皮膚科学	神経・リハビリ
英語	生化学・分子生物学(分子遺伝学)	総合医療学	救急と生体管理
ドイツ語	薬理学	リハビリテーション学	放射線医学
フランス語	病理学(解析人体病理学)	外科学	内分泌・代謝・栄養
心理学	病理学(統御機構・腫瘍学)	脳神経外科学	アレルギー・膠原病・免疫
哲学	微生物学・免疫学	整形外科学	社会医学
倫理学	衛生学・公衆衛生学	産婦人科学	血液・造血器
歴史学	法医学	耳鼻咽喉科学	腎・泌尿器
文化人類学	医療管理学	泌尿器科学	生殖と女性医学
法学		眼科学	運動器・感覚
国文学		麻酔科学	小児・思春期医学
社会学		救急医学	頭頸部・耳鼻咽喉科学
経済学		形成外科学	眼科
			皮膚科学
			形成・再建
			精神医学
			麻酔・集中管理・疼痛制御
			基本臨床実習

1 年 授 業 時 限 配 当 表

(平成 21 年度入学者より適用)

分 類	学 年		1 年							時 限 数	単 位 数	備 考	
	学 期		I			II			III				
	授業科目		前 半	後 半	試 験	前 半	後 半	試 験	全 期				試 験
必 修 科 目	セミナーA (注 1)								12	○	12	0.4	ABC の中から 1 科目 以上を履修するこ と。
	セミナーB (注 1)								12	○	12	0.4	
	セミナーC (注 1)								12	○	12	0.4	
	コンピュータ・リテラシー		12	12	○						24	0.8	全科目履修するこ と。
	N M S		36		○						36	2.4	
	医 学 概 論		12		○						12	0.8	
	医学実地演習 (注 2)		8			44		○			52	1.7	
	生 命 科 学 基 礎			24			12		24	○	60	4.0	
	医 学 入 門					12	12	○			24	1.6	
	生 物 学 実 験			24		24	24	○			72	1.6	
	発 生 と 再 生 医 学						24		12	○	36	2.4	
	物 理 学 実 験			12		24	24		24	○	84	1.8	
	化 学 実 験		36	36		24		○			96	2.1	
	英 語 (A)		12	12		12	12		12	○	60	2.0	
	英 語 (B)		12	12		12	12		12	○	60	2.0	
	統 計 演 習								24	○	24	0.8	
	自 然 科 学 基 礎 (物理・化学・生物) (注 3)		36		○						36	2.4	
	特別プログラム								36	○	36	2.4	
計 18 科目		164	132	④	152	120	④	180	⑩	748	30.0		
選 択 科 目 A	スポーツ科学実習		12	12		12	12	○			48	1.1	6 科目以上履修する こと。
	ス ポ ー ツ 科 学			12		24		○			36	2.4	
	電 磁 気 学					12	12	○			24	1.6	
	熱 力 学					12	12	○			24	1.6	
	物 理 化 学					12	12	○			24	1.6	
	有 機 化 学		12	12	○						24	1.6	
	解 析 学		12	12	○						24	1.6	
	代 数 ・ 幾 何						12		12	○	24	1.6	
	応 用 数 学		24		○						24	1.6	
計 9 科目		60	48	③	72	60	⑤	12	①	252	14.7		

分類	学 年	1 年								時 限 数	単 位 数	備 考
		I			II			III				
	授業科目	前 半	後 半	試 験	前 半	後 半	試 験	全 期	試 験			
選 択 科 目 B	ドイツ語講読／ フランス語講読	12	12		12	12		12	○	60	2.0	2科目履修すること。
	ドイツ語文法／ フランス語文法	12	12		12	12		12	○	60	2.0	
	計 2 科目	24	24		24	24		24	②	120	4.0	
選 択 科 目 C	人文社会科学演習	12	12		6			○		30	1.0	2科目以上履修すること。
	国文学／経済学				6	12		12	○	30	2.0	
	法学／社会学	12	12		6			○		30	2.0	
	心理学／文化人類学				6	12		12	○	30	2.0	
	計 4 科目	24	24		24	24	②	24	②	120	7.0	
科 選 目 D 択	外国語演習 (注 4)	12	12		12	12		○		48	1.6	
	計 1 科目	12	12		12	12	①			48	1.6	

	1 年								時 限 数	単 位 数	備 考
	I			II			III				
	前 半	後 半	試 験	前 半	後 半	試 験	全 期	試 験			
1年必修・選択合計 34科目	284	240	⑦	284	240	⑫	240	⑮	1288	57.3	26科目以上履修し、 46単位以上修得すること

(1) : 授業は、学期、学年末試験を除き原則として年間 30 週行う。I・II 学期前・後半及び III 学期は各 6 週とする。

(2) : 数字は 6 週あたりの授業時限数を示す。(1 時限=45 分)

(3) : ○印は試験時期、数字は試験科目数を示す。

(注 1) : セミナー ABC : 開講時期・時限の違いによる名称。

(注 2) : 内訳

施設見学	8 時限	0.3 単位
臨床看護業務実習	44 時限	1.4 単位

(注 3) : 入学試験において「生物」を選択しなかった者は自然科学基礎 (生物) を受講すること。

: 入学試験において「物理」を選択しなかった者は自然科学基礎 (物理) を受講すること。

: 入学試験において「化学」を選択しなかった者は自然科学基礎 (化学) を受講すること。

(注 4) : 外国語演習 : 英語、ドイツ語、フランス語から自主選択する。

ただし、英語の学力により英語の履修を義務付けることがある。

／ : 同時開講

2 年 授 業 時 限 配 当 表

(平成 21 年度入学者より適用)

分 類	学 年		2 年							時 限 数	単 位 数	備 考	
	学 期	授 業 科 目	I			II			III				
			前 半	後 半	試 験	前 半	後 半	試 験	全 期				試 験
必 修	英 語	12	12	○						24	0.8	全科目履修すること。	
	情報科学演習	12	12	○						24	0.8		
計	必修 2 科目	24	24	②						48	1.6		
選 択 必 修 科 目	運 動 生 理 学				12	12	○			24	1.6	6科目履修すること。	
	福 祉 社 会 論				12	12		12	○	36	2.4		
	医 療 心 理 学				12	12	○			24	1.6		
	医 療 倫 理 学				6	12		12	○	30	2.0		
	歴 史 学 / 哲 学	12	12		6		○			30	2.0		
	人 間 学	12	12	○						24	1.6		
計	選択 6 科目	24	24	①	48	48	③	24	②	168	11.2		
2 年必修・選択合計 8 科目		48	48	③	48	48	③	24	②	216	12.8	8 科目履修し、12.8 単位修得すること。	

- (1) : 授業は、学期、学年末試験を除き原則として年間 30 週行う。I・II 学期前・後半及び III 学期を各 6 週とする。
 (2) : 数字は 6 週あたりの授業時限数を示す。(1 時限=45 分)
 (3) : ○印は試験時期、数字は試験科目数を示す。
 / : 同時開講

	1 年			2 年						総 時 限 数	総 単 位 数	備 考							
	I		II		III		I		II				III						
	前 半	後 半	前 半	後 半	全 期	試 験	前 半	後 半	前 半				後 半	全 期	試 験				
1・2 年必修・選択合計 42 科目	284	240	⑦	284	240	⑫	240	⑮	48	48	③	48	48	③	24	②	1504	70.1	(注 1)

- (1) : 授業は、学期、学年末試験を除き原則として年間 30 週行う。I・II 学期前・後半及び III 学期は各 6 週とする。
 (2) : 数字は 6 週あたりの授業時限数を示す。(1 時限=45 分)
 (3) : ○印は試験時期、数字は試験科目数を示す。
 (注 1) : 第 1 学年は 26 科目以上履修し、46 単位以上修得、第 2 学年は 8 科目履修し、12.8 単位修得すること。

分 類	学 年		2 年							時 限 数	単 位 数	備 考	
	学 期	授 業 科 目	I			II			III				
			前 半	後 半	試 験	前 半	後 半	試 験	全 期				試 験
基 礎 医 学	解剖学(分子解剖学)	66	84		30		○			180			
	解剖学(生体構造学)	40	28		64	56	○			188			
	生理学(システム生理学)	14	28		24	40		12	○	118			
	生理学(生体統御学)	10	32		24	40		8	○	114			
	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	12	12		12	20		58	○	114			
	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)	2	12		12	20		48	○	94			
	医 事 法 学							24	○	24			
	特別プログラム							40		40			
計 8 科目	144	196		166	176	②	190	⑤	872				

3・4年授業時限配当表

(平成22年度入学者より適用)

分類	学 年		3 年							時 限 数	単 位 数	4 年						時 限 数	単 位 数	
	学 期		I			II			III			I		II		III				
	授業科目(コース)		前 半	後 半	試 験	前 半	中 期	後 半	試 験			全 期	試 験	全 期	試 験	全 期	試 験			全 期
基礎 医学	微生物学免疫学		36	36		64	16	16	○			168								
	衛生学公衆衛生学		12	12		16	24	64	○			128								
	薬 理 学		48	96	○							144								
	病理学(解析人体病理学)		20	12		20	16	16	○			84								
	病理学(統御機構・腫瘍学)		20	12		20	16	16	○			84								
	法 医 学		24	24		8	40		○			96								
	基 礎 配 属		48	24		16	16	16				120								
	S G L							32				32								
臨床医学への基礎医学的アプローチ							32				32									
臨 床 医 学	臨 床 医 学 総 論									39	○	39								
	臨床マネジメント入門									18		18								
	循 環 器									42		42	30	○					30	
	消 化 器									45		45	27	○					27	
	呼吸器・感染・腫瘍									45		45	36	○					36	
	神 経 ・ リ ハ ビ リ									39		39	39	○					39	
	救急と生体管理														32	○			32	
	放 射 線 医 学												30	○					30	
	内分泌・代謝・栄養												36	○					36	
	アレルギー・膠原病・免疫												30	○					30	
	血 液 ・ 造 血 器												30	○					30	
	腎 ・ 泌 尿 器												57	○					57	
	生殖と女性医学												12		27	○			39	
	運 動 器 ・ 知 覚														33	○			33	
	小児・思春期医学												12		27	○			39	
	頭頸部・耳鼻咽喉科学														24	○			24	
	眼 科														24	○			24	
	皮 膚 科 学														27	○			27	
	形 成 ・ 再 建														21	○			21	
	精 神 医 学														33	○			33	
麻酔・集中管理・疼痛制御														33	○			33		
基 本 臨 床 実 習																162	○	162		
S G L												51		51	○			102		
3 年 小 計		208	216	①	144	128	176	⑤	228	①	1116									
4 年 小 計												390	⑨	332	⑩	162	①	884		

注) 3年2学期前半、中期、後半は、各4週、3年3学期は8週とする。

注) 3年の基礎医学の講義は、1時限45分で行う。

注) 3・4年のコース講義は、1時限60分で行う。

注) 4年1学期14週、2学期13週とする。

注) 4年のコース修了試験はコース終了後に行う。

5・6年授業時限配当表

(平成22年度入学者より適用)

分類	学年 学期	5年							6年						総時 限数
		I		II		III		I~III	I		II		III		
	授業科目(コース)	全期	試験	全期	試験	全期	試験	試験	全期	試験	全期	試験	全期	試験	
臨床 医学	内科学							①							
	外科学							①							
	脳神経外科学							①							
	麻酔科学							①							
	産婦人科学							①							
	小児科学							①							
	放射線医学							①							
	精神医学							①							
	整形外科							①							
	眼科学							①							
	耳鼻咽喉科学							①							
	皮膚科学							①							
	泌尿器科学							①							
	老年医学							①							
	救急医学							①							
	形成外科学							①							
	集中治療学							①							
	病理学							①							
	臨床実習	2156												2156	
社会医学								30	①				30		
5・6年小計							⑱	30	①				2186		

注) 5年1学期は、16週、2学期は15週、3学期は9週、6年1学期は9週とする。

注) 5年から6年の二重枠は、それぞれの期間の臨床実習科目であり、その配分については別に定める。

注) 臨床実習は、1日8時限、1週44時限とする。

1・2年必修選択合計	1504
2年小計	872
3年小計	1116
4年小計	884
5・6年小計	2186
総計	6562

試験時期一覧表

第一学年	試験時期 および 試験科目	I 学期末 (7 科目)	NMS、医学概論、自然科学基礎（物理・化学・生物）、 コンピュータ・リテラシー、外国語演習（英語、ドイツ語、フランス語）、 心理学 I または歴史学、哲学または日本文化論
		II 学期末 (8 科目)	医学実地演習、医学入門、生物学実験、化学実験、スポーツ科学実習、 スポーツ科学、法学または国文学または宗教学原論、 経済学または英米文化論
		III 学期末 (14 科目)	特別プログラム、生命科学基礎、発生と再生医学、物理学、物理学実験、 化学、数学、英語（A）、英語（B）、セミナー、 ドイツ語講読またはフランス語講読、ドイツ語文法またはフランス語文法、 医学史または医療人類学、心理学 II
第二学年	試験時期 および 試験科目	I 学期末 (4 科目)	必修科目 : 英語、情報科学演習、人間学、医療倫理学
		II 学期末 (6 科目)	選択必修科目 : 運動生理学、福祉社会論、医療心理学、統計学 基礎医学 : 解剖学（分子解剖学）、解剖学（生体構造学）
		III 学期末 (6 科目)	必修科目 : SGL 基礎医学 : 生理学（システム生理学）、生理学（生体統御学）、 生化学・分子生物学（代謝・栄養学）、 生化学・分子生物学（分子遺伝学）、医事法学
第三学年	試験時期 および 試験科目	I 学期末 (1 科目)	基礎医学 : 薬理学
		II 学期末 (6 科目)	基礎医学 : 微生物学、免疫学、衛生学、病理学（解析人体病理学）、 病理学（統御機構・腫瘍学）、法医学
		III 学期末 (1 科目)	臨床医学 : 臨床医学総論（中間試験：循環器、消化器、呼吸器、神経）
第四学年	試験時期 および 試験科目	I 学期	コース修了試験：循環器、救急と生体管理、呼吸器、消化器、神経、 内分泌・代謝・栄養、アレルギー・膠原病・免疫、血液・造血器、 リハビリテーション医学、感染症
		II 学期	コース修了試験：腎・泌尿器、生殖と女性医学、運動器・知覚、 周産期医学・成長・発達、感覚器、放射線医学、皮膚・形成・再建、 精神医学、臨床遺伝、臨床腫瘍、麻酔・集中管理
		III 学期	OSCE、CBT
第五学年	試験時期 および 試験科目	I～III 学期 (20 科目)	病理学、内科学、外科学、 脳神経外科学、麻酔科学、産婦人科学、小児科学、放射線医学、精神医学、 整形外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、老年医学、 救急医学、形成外科学、集中治療学、リウマチ学、総合試験
第六学年	試験科目	(2 科目)	社会医学、総合試験

第 3 学年 授業時間割表

I 学期 前半 【平成 24 年 4 月 11 日 (水) ～5 月 22 日 (火)】

(平成 24 年度)

曜日	1 時限・2 時限		講義場所	3 時限・4 時限		講義場所	5 時限・6 時限		講義場所	7 時限・8 時限		講義場所
	9:00～9:45	9:50～10:35		10:45～11:30	11:35～12:20		1:20～2:05	2:10～2:55		3:05～3:50	3:55～4:40	
4/16, 23, 30 5/7, 14, 21	月	衛生学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
4/17, 24 5/1, 8, 15, 22	火	薬理学	講義室 1	薬理学	講義室 1	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1		講義室 1 実習室 4・5	
4/11, 18, 25 5/2, 9, 16	水	法医学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	自習 (準備・整理・レポート) 4/18 衛生学、4/25 健康診断		自習 (準備・整理・レポート) 4/25 健康診断				
4/12, 19, 26 5/3, 10, 17	木	薬理学	講義室 1	薬理学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
4/13, 20, 27 5/4, 11, 18	金	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1	法医学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1		講義室 1	

I 学期 後半 【平成 24 年 5 月 23 日 (水) ～7 月 3 日 (火)】

曜日	1 時限・2 時限		講義場所	3 時限・4 時限		講義場所	5 時限・6 時限		講義場所	7 時限・8 時限		講義場所
	9:00～9:45	9:50～10:35		10:45～11:30	11:35～12:20		1:20～2:05	2:10～2:55		3:05～3:50	3:55～4:40	
5/28 6/4, 11, 18, 25, 7/2	月	微生物学・免疫学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
5/29 6/5, 12, 19, 26, 7/3	火	薬理学	講義室 1	薬理学	講義室 1 実習室 3	薬理学	講義室 1 実習室 3	薬理学	講義室 1		講義室 1 実習室 3	
5/23, 30 6/6, 13, 20, 27	水	衛生学	講義室 1	法医学 6/6 休講	講義室 1	自習 (準備・整理・レポート) 6/27 衛生学、5/30 法医学、6/13 法医学		自習 (準備・整理・レポート)				
5/24, 31 6/7, 14, 21, 28	木	薬理学	講義室 1	薬理学	講義室 1 実習室 3	薬理学	講義室 1 実習室 3	薬理学	講義室 1		講義室 1 実習室 3	
5/25 6/1, 8, 15, 22, 29	金	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1	法医学 6/8 休講	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1		講義室 1	

II 学期 前半 【平成 24 年 9 月 10 日 (月) ～10 月 5 日 (金)】

曜日	1 時限・2 時限		講義場所	3 時限・4 時限		講義場所	5 時限・6 時限		講義場所	7 時限・8 時限		講義場所
	9:00～9:45	9:50～10:35		10:45～11:30	11:35～12:20		1:20～2:05	2:10～2:55		3:05～3:50	3:55～4:40	
9/10, 17, 24 10/1	月	微生物学・免疫学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
9/11, 18, 25 10/2	火	衛生学	講義室 1	法医学	講義室 1	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1		講義室 1 実習室 4・5	
9/12, 19, 26 10/3	水	微生物学・免疫学	実習室 1・2	微生物学・免疫学	実習室 1・2	自習 (準備・整理・レポート)		自習 (準備・整理・レポート)				
9/13, 20, 27 10/4	木	微生物学・免疫学	実習室 1・2	微生物学・免疫学	実習室 1・2	微生物学・免疫学	実習室 1・2	微生物学・免疫学	実習室 1・2		実習室 1・2	
9/14, 21, 28 10/5	金	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1	衛生学	講義室 1		講義室 1	

II 学期 中期 【平成 24 年 10 月 8 日 (月) ～11 月 5 日 (月)】

曜日	1 時限・2 時限		講義場所	3 時限・4 時限		講義場所	5 時限・6 時限		講義場所	7 時限・8 時限		講義場所
	9:00～9:45	9:50～10:35		10:45～11:30	11:35～12:20		1:20～2:05	2:10～2:55		3:05～3:50	3:55～4:40	
10/8, 15, 29 11/5	月	微生物学・免疫学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
10/9, 16, 23, 30	火	衛生学	講義室 1	衛生学	講義室 1	臨床課題への基礎医学的アプローチ		臨床課題への基礎医学的アプローチ				
10/10, 17, 24, 31	水	衛生学	講義室 1	法医学	講義室 1	SGL	講義室 1	SGL	講義室 1			
10/11, 18, 25 11/1	木	法医学	講義室 1 実習室 1・2	法医学	講義室 1 実習室 1・2	法医学	講義室 1 実習室 1・2	法医学	講義室 1		講義室 1 実習室 1・2	
10/12, 26 11/2	金	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1		講義室 1 実習室 4・5	

II 学期 後半 【平成 24 年 11 月 6 日 (火) ～12 月 3 日 (月)】

曜日	1 時限・2 時限		講義場所	3 時限・4 時限		講義場所	5 時限・6 時限		講義場所	7 時限・8 時限		講義場所
	9:00～9:45	9:50～10:35		10:45～11:30	11:35～12:20		1:20～2:05	2:10～2:55		3:05～3:50	3:55～4:40	
11/12, 19, 26 12/3	月	微生物学・免疫学	講義室 1	微生物学・免疫学	講義室 1	基礎配属	講義室 1	基礎配属	講義室 1		講義室 1	
11/6, 13, 20, 27	火	衛生学	講義室 1 実習室 1・2	衛生学	実習室 1・2 講義室 1	臨床課題への基礎医学的アプローチ		臨床課題への基礎医学的アプローチ				
11/7, 14, 21, 28	水	衛生学	講義室 1	衛生学	講義室 1	SGL	講義室 1	SGL	講義室 1			
11/8, 15, 22, 29	木	衛生学	実習室 1・2 実習室 4・5	衛生学	実習室 1・2 実習室 4・5	衛生学	実習室 1・2 実習室 4・5	衛生学	実習室 1・2		実習室 1・2 実習室 4・5	
11/9, 16, 23, 30 12/7	金	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1	病理学総論	講義室 1 実習室 4・5	病理学総論	講義室 1		講義室 1 実習室 4・5	

第 3 学年 授業時間割表

Ⅲ学期 全期【平成 25 年 1 月 7 日（月）～3 月 14 日（木）】

（平成 24 年度）

日 付	時限	1 時限	2 時限	3 時限	講義 場所	4 時限	5 時限	6 時限	講義 場所	
	曜日	9:00～10:00	10:10～11:10	11:20～12:20		1:20～2:20	2:30～3:30	3:40～4:40		
平成 25 年 1 月 7 日	月	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論	講義室 2	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論	講義室 2	
平成 25 年 1 月 8 日	火	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		
平成 25 年 1 月 9 日	水	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		
平成 25 年 1 月 10 日	木	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		
平成 25 年 1 月 11 日	金	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論		
平成 25 年 1 月 14 日	月	成 人 の 日								
平成 25 年 1 月 15 日	火	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論	講義室 2	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論	講義室 2	
平成 25 年 1 月 16 日	水	臨床医学総論	臨床医学総論	臨床医学総論						
平成 25 年 1 月 17 日	木	臨床マネジメント入門	ケーススタディ	医療管理学		臨床マネジメント入門	ケーススタディ	医療管理学		
平成 25 年 1 月 18 日	金	臨床マネジメント入門	医学判断と情報	医療管理学		臨床マネジメント入門	医学判断と情報	医療管理学		
平成 25 年 1 月 21 日	月	臨床マネジメント入門	パンディミックドリル	医療管理学		臨床マネジメント入門	パンディミックドリル	医療管理学		
平成 25 年 1 月 22 日	火	循環器	循環器	循環器		呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		
平成 25 年 1 月 23 日	水	消化器	消化器	消化器		神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		
平成 25 年 1 月 24 日	木	放射線医学	放射線医学	放射線医学		循環器	循環器	循環器		
平成 25 年 1 月 25 日	金	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		消化器	消化器	消化器		
平成 25 年 1 月 28 日	月	試験：臨床医学総論（午前 10 時～）				講堂	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ	
平成 25 年 1 月 29 日	火	放射線医学	放射線医学	放射線医学		循環器	循環器	循環器	講義室 2	
平成 25 年 1 月 30 日	水	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		消化器	消化器	消化器		
平成 25 年 1 月 31 日	木	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		放射線医学	放射線医学	放射線医学		
平成 25 年 2 月 1 日	金	循環器	循環器	循環器		呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		
平成 25 年 2 月 4 日	月	消化器	消化器	消化器	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ			
平成 25 年 2 月 5 日	火	循環器	循環器	循環器	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍			
平成 25 年 2 月 6 日	水	消化器	消化器	消化器	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ			
平成 25 年 2 月 7 日	木	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	循環器	循環器	循環器			
平成 25 年 2 月 8 日	金	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	消化器	消化器	消化器			
平成 25 年 2 月 11 日	月	建 国 記 念 の 日								
平成 25 年 2 月 12 日	火	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ	講義室 2	循環器	循環器	循環器	講義室 2	
平成 25 年 2 月 13 日	水	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		消化器	消化器	消化器		
平成 25 年 2 月 14 日	木	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		循環器	循環器	循環器		
平成 25 年 2 月 15 日	金	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		消化器	消化器	消化器		
平成 25 年 2 月 18 日	月	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		
平成 25 年 2 月 19 日	火	循環器	循環器	循環器		消化器	消化器	消化器		
平成 25 年 2 月 20 日	水	循環器	循環器	循環器		神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		
平成 25 年 2 月 21 日	木	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		循環器	循環器	循環器		
平成 25 年 2 月 22 日	金	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		循環器	循環器	循環器		
平成 25 年 2 月 25 日	月	中間試験：循環器（午前 10 時～）				講堂	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		呼吸器・感染・腫瘍
平成 25 年 2 月 26 日	火	消化器	消化器	消化器		神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		
平成 25 年 2 月 27 日	水	消化器	消化器	消化器		呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		
平成 25 年 2 月 28 日	木	循環器	循環器	循環器		神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ		
平成 25 年 3 月 1 日	金	消化器	消化器	消化器		呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍		
平成 25 年 3 月 4 日	月	循環器	循環器	循環器	神経・リハビリ	神経・リハビリ	神経・リハビリ			
平成 25 年 3 月 5 日	火	消化器	消化器	消化器	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍	呼吸器・感染・腫瘍			
平成 25 年 3 月 6 日	水	消化器	消化器	消化器	消化器	消化器	消化器			
平成 25 年 3 月 7 日	木									
平成 25 年 3 月 8 日	金	中間試験：呼吸器・感染・腫瘍（午前 10 時～）			講堂					
平成 25 年 3 月 11 日	月									
平成 25 年 3 月 12 日	火	中間試験：消化器（午前 10 時～）			講堂					
平成 25 年 3 月 13 日	水									
平成 25 年 3 月 14 日	木	中間試験：神経・リハビリ（午前 10 時～）			講堂					

試験等に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、日本医科大学医学部学則（以下「学則」という。）第8条第5項に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(授業)

第2条 本学は6年一貫教育の主旨に基づき、授業を前期（1.2.3年次）、後期（4.5.6年次）に分けて実施する。

(試験)

第3条 試験は、各年次の試験科目ごとに行い、その成績は試験科目ごとに決定する。

(試験科目)

第4条 各年次ごとの試験科目は次のとおりとする。

第1年次 NMS、医学概論、医学実地演習、医学入門、特別プログラム、自然科学基礎（物理・化学・生物）、生命科学基礎、生物学実験、発生と再生医学、物理学、物理学実験、化学、化学実験、コンピュータ・リテラシー、数学、英語（A）、英語（B）、セミナー、スポーツ科学実習、スポーツ科学、ドイツ語講読又はフランス語講読、ドイツ語文法又はフランス語文法、外国語演習（英語、ドイツ語、フランス語）、心理学Ⅰ又は歴史学、哲学又は日本文化論、法学又は国文学又は宗教学原論、経済学又は英米文化論、医学史又は医療人類学、心理学Ⅱ

（計29科目）

第2年次 英語、情報科学演習、運動生理学、人間学、医療心理学、医療倫理学、福祉社会論、統計学、SGL (Small Group Learning)

（計9科目）

医事法学、解剖学（分子解剖学）、解剖学（生体構造学）、生理学（システム生理学）、生理学（生体統御学）、生化学・分子生物学（代謝・栄養学）、生化学・分子生物学（分子遺伝学）

（計7科目）

第3年次 微生物学、免疫学、衛生学、薬理学、病理学（解析人体病理学）、病理学（統御機構・腫瘍学）、法医学、臨床医学総論

（計8科目）

第4年次 循環器、消化器、呼吸器、神経、救急と生体管理、放射線医学、内分泌・代謝・栄養、アレルギー・膠原病・免疫、血液・造血器、リハビリテーション医学、感染症、腎・泌尿器、生殖と女性医学、運動器・知覚、周産期医学・成長・発達、感覚器、皮膚・形成・再建、精神医学、臨床遺伝、臨床腫瘍、麻酔・集中管理、基本臨床実習、の各コース（22コース）、OSCE (Objective Structured Clinical Examination)、SGL (Small Group Learning)、CBT (Computer Based Testing)

（計25科目）

第5年次 病理学、内科学、外科学、脳神経外科学、麻酔科学、産婦人科学、小児科学、放射線医学、精神医学、整形外科、眼科学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、老年医学、救急医学、形成外科学、集中治療学、総合試験

（計19科目）

第6年次 社会医学、総合試験

（計2科目）

(成績評価)

第5条 成績の評価は、学則第8条第2項によって行う。

(受験資格)

第6条 受験資格は、学則第8条第3項により与えられるものとし、臨床実習の受験資格については、次のとおりとする。

- (1) 各学科の臨床実習については、原則としてそれぞれの担当する学科目ごとに学則第8条第3項に定める基準により、各学科目の受験資格を与えるものとする。
 - (2) 特別の事由により前号の基準に満たない者については、当該大学院教授が成業の見込みがあると認め、かつ教授会の承認を得た場合に限り、前号の細則にかかわらず受験できるものとする。
- 2 学則第8条第3項による受験資格の有無は試験日程の開始日の1週間前までに掲示するものとする。ただし、第3学年及び第4学年のコース試験では、試験の2日前までとする。

(出席調査)

第7条 出席の調査は、授業担当者又は委嘱された者が行い、その記録は教務担当者が集計する。

(再試験及び手続)

第8条 基礎科学科目、基礎医学及び臨床系各コースの再試験は、学年末に行う。ただし、基本臨床実習、OSCE、SGL、及び総合試験の再試験は行わない。

2 再試験を受ける者は、試験日程掲示後所定の期間内に所定の手続をするものとする。

(追試験)

第9条 病気又は止むを得ない事情で試験が受けられなかった者に対しては、追試験を行う。

2 追試験を受ける者は、欠席したその試験当日中に、教務課又は新丸子校舎事務室に連絡し、3日以内に、その理由に必要な書類を添えて、学長に届出、許可を得るものとする。

(試験の実施)

第10条 試験の日程は、開始日の2週間前までに掲示する。

2 試験は、各科目の責任者の権限と責任のもとに行い、試験監督は科目責任者又は委嘱された教育職員と教務担当係員が行う。ただし、教務担当係員は、主として事務的仕事に当たる。

(留年)

第11条 次の各号の一に該当する者は、留年とする。

- (1) 1年次の終了時において、次のいずれかに該当する者は、1年次に留める。
 - イ 受験無資格科目がある者
 - ロ 必修科目・選択必修科目に3試験科目以上の不合格科目がある者
- (2) 2年次の終了時において、次のいずれかに該当する者は、2年次に留める。
 - イ 2年次基礎科学科目に受験無資格科目がある者又は不合格科目がある者
 - ロ 1年次の基礎科学科目に不合格科目がある者
 - ハ 基礎医学科目に受験無資格科目がある者又は3試験科目以上の不合格科目がある者
- (3) 3年次の終了時において、2年次の基礎医学科目に不合格科目がある者、3年次の科目に受験無資格科目がある者又は不合格科目のある者は、3年次に留める。
- (4) 4年次の終了時において、4年次の試験科目に受験無資格科目がある者又は不合格科目がある者は、4年次に留める。
- (5) 5年次の終了時において、受験無資格科目がある者、臨床実習科目に不合格科目がある者、総合試験が不合格の者は、5年次に留める。
- (6) 6年次の終了時において、受験無資格科目がある者、不合格科目がある者又は臨床実習科目に不合格科目がある者は、6年次に留める。

(留年者の教育)

第12条 各学年の留年者は、留年した学年の全科目を再履修し、受験資格を得た上で、あらためて受験し、合格しなければならない。下級年次不合格科目についても、再受験し、合格しなければならない。

(処分)

第13条 次の各号の一に該当する者は、学則第27条並びに第37条に準じて取扱う。

- (1) 正当な理由なく、出席日数の不足により受験資格を獲得できなかった者
- (2) 正当な理由なく、試験を受験しなかった者
- (3) 試験中、不正行為のあった者

(改廃)

第14条 この細則の改廃には、大学院教授会の承認を必要とする。

付 則

この細則は、昭和52年4月1日より施行する。

昭和54年4月1日改正

昭和56年4月1日改正

昭和60年4月1日改正

昭和61年4月1日改正

昭和62年4月1日改正

ただし、10.(留年)の改正細則は昭和62年度入学者から適用し、昭和61年度以前の入学者は従前のおりとする。

平成3年4月1日改正

平成4年4月1日改正

附 則

この細則は、平成5年4月1日から施行する。

ただし、10.(留年)の改正細則は平成5年度入学者から適用し、平成4年度以前の入学者は従前のおりとする。

附 則

この細則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成10年4月1日から施行する。(全面的に見直した)

附 則

この細則は、平成11年4月1日から施行する。

ただし、(授業)、(試験科目)、(留年)、(再試験及び手続)の改正細則は平成11年度入学者から適用し、平成10年度以前の入学者は従前のおりとする。

附 則

この細則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成15年4月1日から施行する。

ただし、第4条(試験科目)、第8条(再試験及び手続)及び第11条(留年)の細則は、平成11年度入学者から適用し、平成10年度以前の入学者は、平成10年4月1日施行の細則第4条(試験科目)第6年次及び第11条(留年)第5号を次のとおり読み替えて適用するほか、従前のおりとする。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

ただし、第 2 条（授業）、第 4 条（試験科目）、第 8 条（再試験及び手続）、第 11 条（留年）及び第 12 条（留年者の教育）は平成 22 年度入学者から適用し、平成 21 年度以前の入学者は、平成 21 年 4 月 1 日施行の規定第 4 条（試験科目）第 2 年次、第 11 条（留年）(2) を次のとおり読み替えて適用するほか、従前とおりとする。

	読み替え後の規定	平成 21 年 4 月 1 日施行の規定
(試験科目) 第 4 条 第 2 年次	英語、情報科学演習、運動生理学、福祉社会論、医療心理学、医療倫理学、歴史学又は哲学、人間学 (計 8 科目)	英語、情報科学演習、運動生理学概論又は体力トレーニング論、福祉社会特論、臨床心理学特論、英米文化論、日欧比較文化論、倫理学、歴史学又は哲学、医学史 (計 10 科目)
第 5 年次	医事法学、解剖学（分子解剖学）、解剖学（生体構造学）、生理学（システム生理学）、生理学（生体統御学）、生化学・分子生物学（代謝・栄養学）、生化学・分子生物学（分子遺伝学） (計 7 科目)	医事法学、解剖学（分子解剖学）、解剖学（生体構造学）、生理学（システム生理学）、生理学（生体統御学）、生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）、生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学） (計 7 科目)
	病理学、内科学、外科学、脳神経外科学、麻酔科学、産婦人科学、小児科学、放射線医学、精神医学、整形外科、眼科学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、老年医学、救急医学、形成外科学、集中治療学、総合試験 (計 19 科目)	病理学、内科学、外科学、脳神経外科学、麻酔科学、産婦人科学、小児科学、放射線医学、精神医学、整形外科、眼科学、耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、老年医学、救急医学、形成外科学、集中治療学、リウマチ学、総合試験 (計 20 科目)

	読み替え後の規定	平成 21 年 4 月 1 日施行の規定
(留年) 第 11 条	<p>(2) 2 年次の終了時において、次のいずれかに該当する者は、2 年次に留める。</p> <p>イ 基礎科学科目の必修科目に受験無資格科目がある者又は不合格の科目がある者</p> <p>ロ 取得単位数が 12.8 に満たない者</p> <p>ハ 選択科目の合格科目数が 6 に満たない者</p> <p>ニ 基礎医学科目に受験無資格科目がある者又は 2 試験科目以上の不合格科目がある者</p>	<p>(2) 2 年次の終了時において、次のいずれかに該当する者は、2 年次に留める。</p> <p>イ 基礎科学科目の必修科目に受験無資格科目がある者又は不合格の科目がある者</p> <p>ロ 取得単位数が 7.2 に満たない者</p> <p>ハ 選択科目の合格科目数が 4 に満たない者</p> <p>ニ 基礎医学科目に受験無資格科目がある者又は 2 試験科目以上の不合格科目がある者</p>

附 則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

科目名 微生物学・免疫学

科目責任者： 高橋 秀実

担当者： 高橋 秀実、神谷 茂、熊谷 善博、渡理 英二、新谷 英滋、高久 俊

1. 学習目標

「免疫システム」の概要を学習するとともに、リンパ球など「免疫システム」を構成する要素の個々の働きおよびそれらの相互作用について理解し、人体に内在する疾病と闘う力、すなわち「生体防御システム」への認識を深める。またウイルス・細菌・寄生虫など、こうした防御システムにより認識・排除される様々な微生物群を、それぞれの特徴ならびに腫瘍や自己免疫疾患などそれらが誘発する疾病との関連において学習し、感染症学・腫瘍学・アレルギー膠原病学への布石とする。

2. 学習行動目標

- 1) 血清抗体の種類を列举し、それぞれの特徴を説明できる。
- 2) T細胞による抗原認識のメカニズムを説明できる。
- 3) 体表面における自然免疫システムと体内（血液中）における獲得免疫システムの概要とそれらの差違ならびに相互作用に関し説明できる。
- 4) 細菌毒素がスーパー抗原として免疫系に作用する機序を説明できる。
- 5) HLAの実体について理解し、移植における拒絶反応の機序を説明できる。
- 6) ウイルスの本体およびそれぞれのウイルスが誘発する疾病の概要を説明できる。
- 7) ウイルスの持続感染と発癌の関連性を理解し、ウイルスおよび腫瘍に対する免疫応答のメカニズムを概説できる。
- 8) ウイルスならびに腫瘍に対するワクチンの概念を理解し、現在施行されているワクチンや今後のワクチン開発をその必要性を含め説明できる。
- 9) 細菌、寄生虫など様々な微生物の機能的・形態的な特徴を理解し、それぞれが引き起こす疾病ならびに病態について説明できる。
- 10) 微生物を制御するための抗生物質を列举し、その作用機序を説明できる。
- 11) 自己成分に対する抗体ならびにT細胞の応答が誘発される機序について理解し、自己免疫疾患の成立過程を説明できる。
- 12) アレルギー疾患の発生機序をマスト細胞やIgEの関連を含め理解し、説明できる。
- 13) 環境因子としての微生物群と体内因子としての生体防御システムとの相互作用、共生関係のありようについて自分自身の見解をもつ。

3. 評価項目

- 1) 血清抗体の種類（IgA, IgD, IgE, IgG, IgM）、構造、分布、産生機序
- 2) 凝集反応、沈降反応、オプソニン効果、補体活性化、細胞破壊、溶血
- 3) 白血球の種類ならびにそれぞれの形態的および機能的特徴

- 4) 抗原提示分子（クラス I MHC、クラス II MHC、CD1）と抗原提示機序
- 5) T 細胞の分類および胸腺での分化、MHC 分子を介した抗原認識のメカニズム
- 6) 体表面と体内における免疫担当細胞および免疫システムの相違
- 7) 自然免疫系を構築する細胞群（樹状細胞、 $\gamma\delta$ T 細胞、NKT 細胞、NK 細胞）の特徴
- 8) 獲得免疫系を構築する細胞群（T 細胞、B 細胞）の特徴
- 9) 自然免疫系と獲得免疫系との相互作用
- 10) 微生物関連構造パターンと Toll-like receptors (TLRs)
- 11) 微生物産生毒素群の種類と Super 抗原としての免疫賦活作用
- 12) 抗原提示分子 HLA 構造、分布、拒絶反応との関連
- 13) 免疫抑制剤の種類、作用機序
- 14) 微生物群の分類（自己複製能を形成する DNA と RNA）
- 15) ウイルスの分類、形態、関連病態、その制御法
- 16) 細菌群の分類、グラム染色法、関連培地、形態、関連病態、その制御法
- 17) 真菌群の分類、培養、形態、関連病態、その制御法
- 18) 原虫群の分類、形態、関連病態、その制御法
- 19) 寄生虫群の分類、形態、関連病態、その制御法
- 20) ワクチンによるウイルス制御法の過去、現在、未来
- 21) 抗生物質の分類、作用機序
- 22) ウイルスと発癌、癌遺伝子
- 23) 腫瘍特異抗原 (TSA)、腫瘍関連抗原 (TAA) と腫瘍抗原特異的モノクローナル抗体
- 24) 腫瘍免疫、養子免疫療法、共刺激分子、樹状細胞を用いた抗腫瘍免疫の誘導
- 25) クームス I 型としての即時型アレルギーの成立機序、IgE との関連、病態、制御法
- 26) クームス II 型としての溶血、甲状腺機能亢進症の成立機序、病態、制御法
- 27) クームス III 型としての免疫複合体形成、血清病、腎炎の成立機序、病態、制御法
- 28) クームス IV 型としての遅延型アレルギーの成立機序、ツベルクリン反応
- 29) 自己免疫疾患の発生机序、自己抗体、隔絶抗原
- 30) 免疫不全と易感染性、日和見感染症
- 31) 生体防御システムの存在意義、環境との共生

4. 評価基準

筆記試験、口頭試問、レポートなどをもとに総合的に評価する。

A：到達目標に十分達している。

B：到達目標に概ね達しているがまだ十分ではない。

C：到達目標にはまだ至らない。

5. 参考図書

- 1) 矢田純一、高橋秀実 監訳「リップンコット イラストレイテッド免疫学」、丸善株式会社
- 2) 林 英生、岩本愛吉、神谷 茂、高橋秀実 監訳「ブラック微生物学」、丸善株式会社
- 3) 矢田純一 著、「医系免疫学」、中外医学社
- 4) 高津聖志、清野 宏、三宅健介 監修、「免疫学イラストレイテッド」、南江堂
- 5) William E. Paul 著、「Fundamental Immunology」Raven Press (New York)
- 6) 緒方幸雄・神谷 茂 共著、「チャート式 微生物学」、医学評論社
- 7) 柳 雄介、吉田眞一 共編、「戸田新細菌学」、南山堂
- 8) 山口恵三 編、「新興再興感染症」、日本医事新報社

6. 授業予定表（全 77 回）

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
1	4. 11	水	3・4	高橋秀実	講	免疫総論 (1)	生体防御医学への導入 血清因子としての抗体の位置づけ、および血球因子としての免疫担当細胞の概要を理解する。
2	4. 13	金	7・8	〃	講	免疫総論 (2)	自然免疫と獲得免疫の概念、細胞性免疫と体液性免疫、抗体の種類と機能、胸腺と T 細胞の分化、リンパ球の種別などに関する基礎的事項を把握する。
3	4. 18	水	3・4	神谷 茂	講	細菌総論 (1)	細菌の構造と生理 細菌の構造（細胞壁、細胞質膜、染色体 DNA、莢膜、鞭毛など）を理解し、真核生物との違いを知る。
4	4. 20	金	7・8	〃	講	細菌総論 (2)	細菌の生理 細菌の異化代謝、同化代謝、および分子遺伝学的特徴を知る。
5	4. 23	月	3・4	渡理英二	講	ウイルス総論 (1)	ウイルス序論（ウイルスの分類と構造） ウイルスと社会の関わり合いとその重要性を理解する。
6	4. 25	水	3・4	高橋秀実	講	免疫総論 (3)	抗原提示機構の概要 MHC 分子と CD1 分子の構造と特性、MHC 分子を介した T 細胞の抗原認識メカニズムを理解する。
7	4. 27	金	7・8	渡理英二	講	ウイルス総論 (2)	細胞レベルでのウイルスの増殖機構 細胞レベルでの感染理解と病態との関連をマクロにとらえる。
8	5. 2	水	3・4	神谷 茂	講	細菌総論 (3)	化学療法（総論） 抗菌剤の定義と作用メカニズムを理解するとともに化学療法の基本的概念を知る。
9	5. 7	月	3・4	〃	講	細菌総論 (4)	化学療法（各論） 各種抗菌剤（ペニシリン、セファム、アミノグリコシド、マクロライド、ニューキノロン系など）の作用機序、適応症、副作用などを理解する。
10	5. 9	水	3・4	〃	講	細菌各論 (1)	腸内細菌科細菌 (1) まず、正常（常在）フローラの種類とその役割を知る。次いで、腸内細菌科細菌の性状、特に O157 : H7 病原性大腸菌およびその対処法を理解する。
11	5. 11	金	7・8	〃	講	細菌各論 (2)	腸内細菌科細菌 (2) 腸内細菌科細菌（赤痢菌、チフス菌、サルモネラ、エルシニアなど）の病原性。特に赤痢、チフス、サルモネラ食中毒の病態を理解する。
12	5. 14	月	3・4	〃	講	細菌各論 (3)	ビブリオ科細菌 ビブリオ科細菌の性状および病原性。特にコレラ菌、O139 新型コレラ菌、腸炎ビブリオ感染症の病態を理解する。
13	5. 16	水	3・4	高橋秀実	講	免疫各論 (1)	生体防御医学としての感染免疫学 ウイルスや細菌など個々の病原微生物の特徴と防御システムとの攻防の様相を理解する。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
14	5. 18	金	7・8	高久 俊	講	ウイルス総論 (3)	ウイルスの持続感染とウイルス発ガン ウイルス関連病態と生体内への潜伏をめ ざすウイルスの戦略を理解する。
15	5. 21	月	3・4	〃	講	ウイルス総論 (4)	個体レベルでのウイルスの感染 個体レベルでのウイルス感染の成立の過 程と病因を理解する。
16	5. 25	金	7・8	高橋秀実	講	免疫各論 (2)	細菌毒素と Toll-like receptor 細菌由来の内毒素と外毒素、細菌毒素に 対する免疫応答と各種の症候、スーパー 抗原としての毒素とサイトカイン分泌の 関連を知る。
17	5. 28	月	1・2	藤田紘一郎	講	寄生虫特講 (1)	寄生虫とは 新興・再興感染症としての寄生虫感染を 基に寄生虫との共生を考える。
18	5. 28	月	3・4	〃	講	寄生虫特講 (2)	寄生虫とアレルギー 寄生虫疾患の減少とアレルギー疾患増加 の逆相関に着目し、アレルギーと寄生虫 との関連を考察する。
19	6. 1	金	7・8	神谷 茂	講	細菌各論 (4)	グラム陰性好気性細菌 シュードモナス属、レジオネラ属、ボル デテラ属細菌などの性状および病原性。 特に緑膿菌、在郷軍人病菌、百日咳菌感 染症の病態を理解する。
20	6. 4	月	1・2	藤田紘一郎	講	寄生虫特講 (3)	寄生虫疾患へのアプローチ 中間宿主と終宿主における寄生虫動態の 差異から寄生虫疾患の実体を理解する。
21	6. 4	月	3・4	〃	講	寄生虫特講 (4)	寄生虫疾患の実例 マラリア、トキソプラズマ、エキノコッ カスなどを中心に学習する。
22	6. 8	金	7・8	高橋秀実	講	免疫各論 (3)	粘膜免疫 体内獲得免疫の制御系とも言える粘膜免 疫応答を α β 型 T 細胞と γ δ 型 T 細胞の 相違、樹状細胞と TLR、そして NKT 細胞 の特性をもとに理解する。
23	6. 11	月	1・2	清野 宏	講	免疫特講 (1)	粘膜免疫学 (I) 粘膜の構造とそこに棲息する免疫担当細 胞、IgA の種類とその分泌制御のメカニ ズムなどを理解する。
24	6. 11	月	3・4	〃	講	免疫特講 (2)	粘膜免疫学 (II) γ δ 型 T 細胞とその役割、経鼻、経口を 主体とした粘膜ワクチン、粘膜アジュバ ントについて学習する。
25	6. 15	金	7・8	新谷英滋	講	細菌各論 (5)	グラム陽性球菌 ブドウ球菌、レンサ球菌などを中心に学 習する。
26	6. 18	月	1・2	高久 俊	講	ウイルス総論 (5)	ウイルス感染に対する防御機構と体内伝 播インターフェロンを始めとした免疫機 構との関連を総括する。
27	6. 18	月	3・4	高橋秀実	講	免疫各論 (4)	腫瘍免疫 癌に対する免疫応答及び免疫療法の可能 性を、癌抗原、樹状細胞、Co-stimulation 因子の意義を基に理解する。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
28	6. 22	金	7・8	高橋秀実	講	免疫各論 (5)	移植免疫と免疫抑制 HLA の相違に起因する拒絶反応の機序と、免疫抑制剤の作用をもとに移植免疫の実態を理解する。
29	6. 25	月	1・2	高久 俊	講	ウイルス各論 (1)	DNA ウイルス (1) ヘルペスウイルス群とアデノウイルス群を中心に学習する。
30	6. 25	月	3・4	高橋秀実	講	免疫各論 (6)	自己免疫と膠原病 リウマチ疾患などの膠原病、溶血性貧血などの自己免疫疾患の発生機序について理解を深める。
31	6. 29	金	7・8	新谷英滋	講	細菌各論 (6)	グラム陰性球菌 淋菌、髄膜炎菌などを中心に学習する。
32	7. 2	月	1・2	渡理英二	講	ウイルス各論 (2)	RNA ウイルス (1) インフルエンザウイルスを中心に SARS ウイルス及びかぜウイルス全般について学習する。
33	7. 2	月	3・4	高橋秀実	講	免疫各論 (7)	免疫システムの意義 免疫授業のまとめとして、スーパーシステムとしての免疫系の実体および存在意義を考える。
34	9. 10	月	1・2	高橋秀実 熊谷善博	演	英語演習 (1)	英語演習 免疫関連医学英文論文の読解力、医学英語の理解に関するテスト実施後、英文テストの解説と英文論文の読み方を学ぶ。
35	9. 10	月	3・4	〃	演	英語演習 (2)	免疫学の総復習と実習説明 微生物学・免疫学実習書の配布の後、個々の実習内容の概要を説明し、実習への導入をはかる。
36	9. 12	水	1・2	教室員全員	実	細菌実習	学生自身の口腔内細菌の分離培養のための培地作りとその実施により実際に細菌に触れながらその理解を深める。
37	9. 12	水	3・4	〃	実	細菌実習	
38	9. 13	木	1・2	〃	実	細菌実習	昨日分離した自身の口腔内細菌をグラム染色して顕微鏡で観察し、その性状検査を行い細菌の形態学的、生理学的性質を理解する。また、抗菌剤に対する感受性を調べるため分離菌を感受性培地に接種する。
39	9. 13	木	3・4	〃	実	細菌実習	
40	9. 13	木	5・6	〃	実	細菌実習	Zhiel-Neelsen 染色法など、結核菌の迅速な検出同定法を学習する。
41	9. 13	木	7・8	〃	実	細菌実習	
42	9. 19	水	1・2	渡理英二	講	ウイルス各論 (3)	RNA ウイルス (2) パラミクソウイルス (麻疹、ムンプス)、ラブドウイルスを中心に RNA ウイルス持続感染機構及び異常疾病ウイルス感染症を学習する。
43	9. 19	水	3・4	熊谷善博	講	免疫各論 (8)	免疫担当細胞の分化 リンパ球の初期分化について学習し、免疫担当細胞の分化過程における自己非自己識別能を獲得機序の理解を深める。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
44	9. 20	木	1・2	教室員全員	実	細菌実習	前回接種した薬剤感受性培地における培養結果から薬剤感受性を判定し、細菌に対する抗菌薬のスペクトラムを理解する。
45	9. 20	木	3・4	〃	実	細菌実習	
46	9. 20	木	5・6	〃	実	ウイルス実習	
47	9. 20	木	7・8	〃	実	ウイルス実習	赤血球凝集反応によって学生自身が保有するインフルエンザウイルスに対する抗体価を測定し、ウイルス感染と生体の反応について理解する。
48	9. 24	月	1・2	〃	実	ウイルス実習	
49	9. 24	月	3・4	〃	実	ウイルス実習	
50	9. 26	水	1・2	〃	実	細菌実習	分子生物学的手法（PCR 法）による核菌の迅速な検出、同定法を学習し、従来の方法と比較する。
51	9. 26	水	3・4	〃	実	細菌実習	
52	9. 27	木	1・2	〃	実	免疫実習	フローサイトメトリーを用い免疫担当細胞の表面抗原の検索を行い、個々の細胞の特性を理解する。
53	9. 27	木	3・4	〃	実	免疫実習	
54	9. 27	木	5・6	〃	実	免疫実習	
55	9. 27	木	7・8	〃	実	免疫実習	
56	10. 1	月	1・2	渡理英二	講	ウイルス各論（4）	RNA ウイルス（3） 脳炎を引き起こすウイルスと下痢関連ウイルス、各論は臨床医学で話題のウイルスも随時織りこむ。
57	10. 1	月	3・4	熊谷善博	講	免疫各論（9）	抗原レセプター 多様な抗原に対する抗体やT細胞抗原レセプターが産生されるメカニズムを学習する。
58	10. 3	水	1・2	教室員全員	実	細菌実習	9月26日に実施したツベルクリンの判定、およびPCR法による結核菌検出のデータ解析。
59	10. 3	水	3・4	〃	実	免疫実習	フローサイトメトリーを用いた実験結果を解析し、末梢臓器と胸腺内細胞群の表面分子発現の差異を理解する。
60	10. 4	木	1・2	〃	実	アレルギー実習	ラット皮膚反応（PCA 反応）を用いたIgE抗体の検出実験、およびウイルス実習のための学生相互による採血を実施する。
61	10. 4	木	3・4	〃	実	アレルギー実習	
62	10. 4	木	5・6	〃	実	アレルギー実習	
63	10. 4	木	7・8	〃	実	実習のまとめ	これまでのデータに基づく質疑応答を個々の班ごとに行い、微生物と体内防衛システムとの相互作用を理解する。
64	10.15	月	1・2	熊谷善博	講	免疫各論（10）	補体の免疫応答 補体による異物排除のメカニズムについて概説を加える。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
65	10.15	月	3・4	熊谷善博	講	免疫各論 (11)	免疫反応とアレルギー 生体内の免疫応答の類型(Coombs の分類)とアレルギーに理解する。
66	10.29	月	1・2	新谷英滋	講	細菌各論 (7)	抗酸菌 結核菌、ライ菌、非定型抗酸菌などを中心に学習する。
67	10.29	月	3・4	高橋秀実	講	ウイルス各論 (5)	肝炎関連ウイルス (HAV, HBV, HCV, HDV, V, HEV)。肝炎ウイルス群を概説し、感染ルート (輸血、経口) などの差異、及び肝臓癌発生との関連等について学習する。
68	11. 5	月	1・2	新谷英滋	講	細菌各論 (8)	グラム陽性桿菌 ジフテリア菌、破傷風菌などを中心に学習する。
69	11. 5	月	3・4	高橋秀実	講	ウイルス各論 (6)	レトロウイルス (HIV, HTLV-1) レトロウイルスである HIV による後天性免疫不全症候群や HTLV-1 による成人型 T 細胞性白血病の発生機序等を学ぶ。
70	11.12	月	1・2	新谷英滋	講	微生物学演習 (1)	感染症症例呈示と診断へのアプローチ 感染症症例呈示と治療へのアプローチ
71	11.12	月	3・4	〃	講	微生物学演習 (2)	
72	11.19	月	1・2	〃	講	細菌各論 (9)	特殊細菌群 (1) スピロヘータ、リケッチアなどを中心に学習する。
73	11.19	月	3・4	高橋秀実	講	細菌各論 (10)	特殊細菌群 (2) (クラミジア、マイコプラズマなど)
74	11.26	月	1・2	神谷 茂	講	細菌各論 (11)	グラム陰性らせん菌 カンピロバクター属、ヘリコバクター属細菌の性状と病原性。特にカンピロバクター・ジェジュニとヘリコバクター・ピロリ感染症の病態を理解する。
75	11.26	月	3・4	〃	演	微生物学演習 (3)	下痢症患者の発症経過、便性状、便培養検査、および便中細菌抗原検査等により原因菌を推定する。
76	12. 3	月	1・2	高橋秀実	講	微生物学免疫学	試験範囲、試験対策と総まとめ (1) 微生物と我々との関係は如何にあるべきか?
77	12. 3	月	3・4	〃	講	微生物学免疫学	試験範囲、試験対策と総まとめ (2) 我々の体内に内在する防御システムの真の役割は?

7. その他注意事項

授業の中に「演習」をもうけ、英語の読解力をテストするとともに微生物学免疫学に関する英文論文の読み方を練習する。また実際の臨床症例等をもとに「感染症」や「アレルギー・膠原病」疾患への理解を深め、臨床医学と基礎医学との関連性を学ぶ。

科目名 衛生学

科目責任者： 川田 智之

担当者： 川田 智之、永原 則之、若山 葉子、稲垣 弘文、李 卿、大塚 俊昭、
李 英姫、勝又 聖夫、平田 幸代

1. 学習日標

衛生学は、いわゆる健常者（主体）集団を対象に、その生活環境の管理、主体と環境との相互作用の検出と評価、健康の保持増進、および疾病の一次・二次および三次予防活動を行うための、知識・技術の体系である。時代とともに、衛生学の守備範囲は変化し、健康障害要因として、物理的・化学的・生物学的環境諸要因と主体との関係の評価する手法も変わっていくものであるが、健康障害発症メカニズムを明らかにしていくための基礎的アプローチを講義および実習で修得していく。

加えて、モデルコアカリキュラムを踏まえた公衆衛生学の諸範囲を系統的に学習する。

2. 学習行動目標

衛生学の概要を論ずるため、教科書に「南江堂：シンプル衛生公衆衛生学」を用い、必要に応じて詳しいデータ資料を紹介または当日配布する。病気がいかに大きく個人の日常生活そのものに由来するものであるか、その予防対策にはどのようなものがあるか、地域・学校・職場での健康管理とその評価、疫学、予防医学、環境保健などを講ずる。前もって教科書で予習をして、問題意識をもって臨むこと。

- 1) 講義：健常集団と環境との相互作用について、物理・化学・生物学的要因のみならず、心理・社会的要因を含めた生態学的アプローチの重要性を理解する。
- 2) 実習：健康の維持と疾病の予防に関する知識と技術を学ぶ。半日または全日を単位とし、以下の各項目についてクラスの半分ずつでローテートする。
 - ① データのまとめ方（統計演習を含む）：実験結果や調査データを手にした時、それをどのように処理し、まとめていくかを、統計学的手法の基礎を含めて習得する。
 - ② 水環境の衛生学Ⅰ：上水（飲料水）の水質試験項目を理解し、その一部を実体験することを通じて、水質を確保することの重要性を理解する。
 - ③ 水環境の衛生学Ⅱ：有機リン化合物の酵素活性阻害を観察し、水質汚濁物質の生体影響について理解を深める。
 - ④ 室内環境の測定と評価：本学内の各所において物理的、化学的環境条件の測定を行い、その結果に基づき、快適な環境条件の確保について考察する。
 - ⑤ 喫煙健康影響：喫煙の健康影響を呼気中 CO 濃度測定やタバコ煙中のガス成分測定から評価し、アンケート調査結果の解析を通してタバコに対する考え方の相違を確認して、防煙教育や禁煙指導に役立てる。
 - ⑥ 産業疲労：作業負荷（運動負荷）による疲労について、測定・評価を行うことにより、疲労やストレスの理解を深め、それらのマネジメントを展望する。
 - ⑦ 学外実習：予防医学・環境保全の重要性を理解するため、浄水場等の施設の見学を行う。

3. 評価項目

- 1) 健康概念と衛生学：衛生公衆衛生学・予防医学の位置づけと歴史。健康概念。インペアメント、能力障害および社会的不利。健康問題とその対応の歴史。
- 2) 人口静態、人口動態統計：人口変動。出生と死亡。人口の社会的移動。人口動態・静態統計指標。合計特殊出生率。年齢調整死亡率。生命表。平均余命。
- 3) 環境衛生学：環境の成り立ち。公害と環境基準。地球環境問題。環境基本法と環境政策。環境（リスク）の評価と管理。上下水道の意義。水質汚濁物質。大気成分と大気汚染。大気汚染物質の生体影響。感染症の発生動向。感染症予防対策。
- 4) 毒性学：化学物質の生体影響。量反応関係と量影響関係。癌原性。免疫毒性。内分泌かく乱化学物質。
- 5) 健康管理：健康管理のスペクトラムと活動の構成。健康管理技法とスクリーニング。敏感度と特異度。ROC 曲線。集団検診。現存の健康管理制度のあらまし。
- 6) 産業保健：働く人の健康と健康問題史。労働時間と賃金。労働災害と事故。安全対策。職業病とその対策。健康管理。作業環境。作業の種類とその管理。労働生理。疲労とその対策。職場の管理。労働衛生行政。労働安全衛生法。産業医と衛生管理。健康増進対策。
- 7) 疫学とその応用：疫学の概念と目的。疾病の分類。宿主-病因関係。罹患率、死亡率、主要な健康指標。分析疫学（横断研究、追跡研究）。因果関係論。
- 8) 学校保健：学校医の職務。学校保健安全法。学校感染症。
- 9) 母子保健：母子保健行政。健やか親子 21。少子化対策。
- 10) 国際保健：WHO の機能。国際機関の種類と機能。世界の健康問題。検疫。
- 11) 成人保健：生活習慣病の種類。危険因子の評価と管理。生活習慣病予防対策。
- 12) 高齢者保健：高齢者医療の特徴。高齢者医療施策。
- 13) 精神保健：精神保健行政。精神保健福祉法。精神障害者の入院。薬物依存。アルコール中毒。
- 14) 地域保健と保健所業務：地域保健行政。保健所と市町村保健センター。保健所業務。地域の保健問題。
- 15) 食品衛生：食中毒。食品の安全確保。食品添加物。
- 16) 健康の保持と増進：PHC とヘルスプロモーション。健康増進施策の変遷。健康日本 21。健康増進法。健康増進と食品。

4. 評価基準

学習行動目標に対する評価項目を習得しているか否かについての試験を行い、かつレポートや出席態度を考慮のうえ、総合的に 100 点満点で評価する。評価区分は学則に定める。

5. テキスト・参考書

シンプル衛生公衆衛生学 2012；[監修] 鈴木庄亮・久道 茂；南江堂
「国民衛生の動向」；厚生統計協会（毎年 9 月に刊行）

6. 授業予定表（全 64 回）

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
1	4. 18	水	5・6	川田 智之	講	衛生公衆衛生入門	「健康」の定義、衛生学公衆衛生学の考え方、目的と手法について理解する。
2	4. 23	月	1・2	永原 則之	講	環境衛生学； 毒性学（1）	化学環境への適応とその破綻 ヒトが環境の変化、特に化学物質に対してどのように適応して来たか、化学物質の生体内での代謝や進化的観点を含めて理解する。
3	5. 7	月	1・2	李 卿	講	環境衛生学； 物理的環境因子（1）	騒音・振動等 騒音、局所振動、全身振動がヒトの健康にどのような影響を及ぼすかを理解する。
4	5. 14	月	1・2	李 英姫	講	環境衛生学； 物理的環境因子（2）	温熱環境と健康 ヒトと周囲の温湿度などの関わり、変化への適応と破綻状態について理解する。
5	5. 21	月	1・2	稲垣 弘文	講	環境衛生学； 化学的環境因子（1）	一般大気 一般大気の成分とヒトの健康との関係について理解する。
6	5. 23	水	1・2	〃	講	環境衛生学； 化学的環境因子（2）	大気汚染物質 大気汚染物質の種類、我が国の汚染状況と健康との関わりについて理解する。
7	5. 30	水	1・2	李 英姫	講	環境衛生学； 化学的環境因子（3）	大気汚染と呼吸器疾患 大気汚染物質、特に粒子状物質の呼吸器への影響、その病態について理解する。
8	6. 6	水	1・2	平田 幸代	講	環境衛生学； 化学的環境因子（4）	上・下水道と水質基準 上下水道の意義、その仕組みと規制について理解する。
9	6. 13	水	1・2	稲垣 弘文	講	環境衛生学； 化学的環境因子（5）	水質汚濁物質 水質汚濁物質の種類とその生体影響について理解する。
10	6. 20	水	1・2	〃	講	環境衛生学； 化学的環境因子（6）	公害 4 大公害事件を中心に、その概要と経緯について学び、現在の環境行政の成り立ちを理解する。
11	6. 27	水	1・2	李 卿	講	環境衛生学； 毒性学（2）	免疫修飾 ヒトの免疫機能に影響を与える化学物質の特徴と、そのメカニズムについて理解する。
12	6. 27	水	5・6	若山 葉子	講	環境衛生学； 生物学的環境因子（1）	（感染症）関連法規 ヒトと感染症の関わりについて、法令からの視点で理解する。
13	9. 11	火	1・2	稲垣 弘文	講	食品衛生（1）	食の安全 化学物質などによる食品汚染と食中毒について、その予防対策と管理体制を理解する。
14	9. 14	金	7・8	川田 智之	講	疫学総論	疫学の考え方と疫学指標 疫学という手法について学び、その特徴と各種疫学指標の意味について理解する。
15	9. 18	火	1・2	若山 葉子	講	食品衛生（2）	食中毒 細菌性食中毒などについて、その発生動向と予防対策について理解する。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
16	9. 21	金	7・8	若山 葉子	講	疫学各論 (1)	感染症の疫学 我が国における、感染症の種類と発生状況について系統的に理解する。
17	9. 25	火	1・2	李 英 姫	講	疫学各論 (2)	呼吸器疾患 我が国における呼吸器疾患の発生動向について学び、その背景と、予防対策を理解する。
18	9. 28	金	7・8	大塚 俊昭	講	疫学各論 (3)	癌 さまざまながんの発生動向とその特徴について理解する。
19	10. 2	火	1・2	勝又 聖夫	講	疫学各論 (4)	人口静態 人口静態指標について、その種類と意味、調査方法について理解する。
20	10. 5	金	7・8	若山 葉子	講	疫学各論 (5)	疾病分類と疾病統計・国際疾病分類 国際疾病分類 (ICD) について学び、疾病の発生動向について理解する。
21	10. 9	火	1・2	大塚 俊昭	講	学校保健	学校保健の内容と学校医等の各種保健職の仕事について学び、学校における医師の役割について理解する。
22	10. 9	火	3・4	川田 智之	講	予防医学と健康指標	予防医学の考え方、疾病予防の各段階について学び、同時に、その結果の評価としての各種指標の意味について理解する。
23	10.10	水	1・2	勝又 聖夫	講	疫学各論 (6)	人口動態 (出生と死亡・死因) 人口動態の各種指標の意味について学び、かつ我が国の状況について理解する。
24	10.16	火	1・2	大塚 俊昭	講	疫学各論 (7)	循環器疾患 我が国における循環器疾患の発生動向について学び、その背景と、予防対策を理解する。
25	10.16	火	3・4	川田 智之	講	健康の保持と増進 (1)	生活習慣と健康 睡眠・休養、アルコールなどの生活習慣と健康との関連について理解し、疾病予防対策を考える。
26	10.17	水	1・2	若山 葉子	講	国際保健	WHO をはじめとする各種国際機関の機能について学び、同時に感染症を始めとする国際的な保健の現状について理解する。
27	10.23	火	1・2	大塚 俊昭	講	疫学各論 (8)	代謝疾患 我が国における代謝疾患の発生動向について学び、その背景と、予防対策を理解する。
28	10.23	火	3・4	川田 智之	講	成人保健	生活習慣病 生活習慣病の定義と種類、およびそれらの危険因子 (リスクファクター) について理解し、その予防対策を考える。
29	10.24	水	1・2	李 卿	講	疫学各論 (9)	アレルギー疾患 花粉症を始めとする各種アレルギー疾患の発生動向について学び、その背景を考える。
30	10.30	火	1・2	小和田 暁子	講	保健所業務	地域保健の最前線である保健所の業務内容について理解し、同時に文京区の各種保健指標について学ぶ。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
31	10.30	火	3・4	森 亨	講	環境衛生学； 生物学的環境因子（2）	結核対策 感染症の予防対策の代表例として、結核対策の歴史と現状について理解する。
32	10.31	水	1・2	勝又聖夫	講	母子保健	我が国の母子保健体制と現状、問題点について理解する。
33	11. 6	火	1・2	大塚俊昭	講	産業保健（1）	衛生三管理と健康増進 産業保健の導入として、衛生三管理の内容と産業医の職務について学び、労働者の健康について考える。
34	11. 6	火	3・4	教室員全員	実	実習オリエンテーション	「衛生学実習」各項目の内容および注意事項について説明する。 出席必須。
35	11. 7	水	1・2	勝又聖夫	講	疫学各論（10）	喫煙の健康影響 喫煙の健康に与える影響、喫煙関連疾患の現状、喫煙予防対策について理解し、その将来を考える。
36	11. 7	水	3・4	稲垣弘文	講	健康の保持と増進（2）	PHCとヘルスプロモーション 世界と日本の健康保持・増進施策について学び、その意義を理解する。
37	11. 8	木	1・2	教室員全員	実	衛生学実習（1）	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
38	11. 8	木	3・4	〃	実	衛生学実習（1）	
39	11. 8	木	5・6	〃	実	衛生学実習（2）	実習項目①～⑦のいずれか 学習行動目標参照
40	11. 8	木	7・8	〃	実	衛生学実習（2）	
41	11.13	火	1・2	〃	実	衛生学実習（3）	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
42	11.13	火	3・4	〃	実	衛生学実習（3）	
43	11.14	水	1・2	高橋 亨	講	精神保健（1）	精神医療と社会復帰（1） 精神医療の現状、精神保健の体制について学び、その問題点について考える。
44	11.14	水	3・4	〃	講	精神保健（2）	精神医療と社会復帰（2）
45	11.15	木	1・2	教室員全員	実	衛生学実習（4）	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
46	11.15	木	3・4	〃	実	衛生学実習（4）	
47	11.15	木	5・6	〃	実	衛生学実習（5）	実習項目①～⑦のいずれか 学習行動目標参照
48	11.15	木	7・8	〃	実	衛生学実習（5）	
49	11.20	火	1・2	〃	実	衛生学実習（6）	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
50	11.20	火	3・4	〃	実	衛生学実習（6）	
51	11.21	水	1・2	李 卿	講	産業保健（2）	ストレスとストレス管理 職業性ストレスの種類と生理について学び、その対策を理解する。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
52	11.21	水	3・4	稲垣弘文	講	健康の保持と増進 (3)	我が国の健康増進施策 健康日本 21 にいたる我が国の健康増進施策について学び、その背景と意義について理解する。
53	11.22	木	1・2	教室員全員	実	衛生学実習 (7)	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
54	11.22	木	3・4	〃	実	衛生学実習 (7)	
55	11.22	木	5・6	〃	実	衛生学実習 (8)	実習項目①～⑦のいずれか 学習行動目標参照
56	11.22	木	7・8	〃	実	衛生学実習 (8)	
57	11.27	火	1・2	永原則之	講	高齢者保健	高齢者医療の特徴と高齢者に対する保健施策、体制について学び、その現状を理解するとともに将来を考える。
58	11.27	火	3・4	川田智之	講	産業保健 (3)	産業化学物質 有機溶剤や重金属などの人体への影響を理解し、健康被害の防止について考える。
59	11.28	水	1・2	若山葉子	講	地域保健	地域保健の体制について学び、その現状を理解する。
60	11.28	水	3・4	稲垣弘文	講	健康の保持と増進 (4)	食と健康 食事摂取基準や保健機能食品制度について学び、健康の保持増進における食の重要性について理解する。
61	11.29	木	1・2	教室員全員	実	衛生学実習 (9)	実習項目①～⑥のいずれか 学習行動目標参照
62	11.29	木	3・4	〃	実	衛生学実習 (9)	
63	11.29	木	5・6	〃	実	衛生学実習 (10)	実習項目①～⑦のいずれか 学習行動目標参照
64	11.29	木	7・8	〃	実	衛生学実習 (10)	

7. その他注意事項

科目名 薬理学

科目責任者： 鈴木秀典

担当者： 鈴木秀典、齋藤文仁、浅田 穰、永野昌俊、小林克典、坂井 敦、
池田裕美子、佐藤寛栄

1. 学習目標

基本的な薬物を通して薬物と生体との相互作用の結果起こる生体现象を学び、薬物治療の薬理学的基盤を理解する。動物実験および臨床試験の進め方やデータの読み方を学ぶことによって正しい薬効評価が出来る能力を養う。また薬害の発生に対し、その医学的および社会的問題性を認識し早期に対処することの重要性を理解する。

2. 学習行動目標

A) 講義

- 1) 薬物治療の医学における位置づけ、社会における役割を理解する。
- 2) 薬物および内因性生理活性物質の作用機序を理解し説明できる。
- 3) 薬物および内因性生理活性物質の体内動態を理解し説明できる。
- 4) 薬物により起こりうる有害反応を理解し、薬物治療における注意点を説明できる。
- 5) 動物実験から臨床試験を経て薬物が臨床応用されるまでの過程を理解し、薬効評価法について説明できる。
- 6) 過去の事例から薬害の社会問題性を認識し、医師として早期発見し対処することの重要性を認識する。

B) 実習

- 1) 実習を通して薬物作用機構や薬効評価における生物検定法の重要性を理解し応用できる。
- 2) 実習を通して基本的な薬物の薬理作用を理解し説明できる。
- 3) 動物を用いる実験において、実験動物に対する倫理性を理解し実行できる。
- 4) 動物を用いる実習において、実験の進め方および結果の解釈について学び実行できる。
- 5) 臨床薬理学実習において、ヒト臨床試験の倫理性およびインフォームドコンセントの重要性を理解し実行できる。
- 6) 臨床薬理学実習において、二重盲検法を含む臨床試験の進め方、データの統計学的取り扱い方を理解し説明できる。
- 7) 実験結果のレポートおよび口頭発表を通して、論理的思考力、論文作成能力、説明能力を養う。
- 8) グループ学習において、薬物治療の対象となる病態を抽出し、治療の薬理学的基盤を説明できる。

3. 評価項目

- 1) 講義：学習行動目標に掲げる項目および授業内容（授業予定表参考）の各項目
- 2) 実習および演習：学習行動目標に掲げる項目および実習内容（実習書参考）の各項目

4. 評価方法

筆記試験、演習、実習、提出レポートを含め総合的に評価する。60 点以上を合格とする。

5. 参考図書

Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 12th edition (2011)

Brunton, L.L., Chabner, B.A. and Knollmann, B.C. eds., McGraw-Hill Medical
Principles of Pharmacology, 3rd edition (2011)

Golan, D.E. et al. eds., Lippincott Williams & Wilkins
Rang and Dale's Pharmacology, 7th edition (2011)

Rang, H.P., Dale, M.M., Ritter, J.M. and Flower, R.J., Churchill Livingstone
Basic & Clinical Pharmacology, 12th edition (2011)

Katzung, B.G., Masters, S. and Trevor, A.J., McGraw-Hill Medical

NEW 薬理学 改訂第6版 (2011) 南江堂

医系薬理学 改訂2版 (2005) 中外医学社

標準薬理学 第6版 (2001) 医学書院

6. 授業予定表（全 140 回）

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
1	4.12	木	1	鈴木秀典	講	総論：薬理学	序論
2	4.12	木	2	齋藤文仁	講	総論：薬理学	薬物受容体の概念、用量反応曲線、薬物の定量的評価、作動薬、拮抗薬
3	4.12	木	3	〃	講	総論：神経伝達	シナプスの構造と機能、化学伝達と電気伝達、神経伝達物質、イオンチャネル、神経伝達物質受容体、細胞内情報伝達系
4	4.12	木	4	〃	講	総論：神経伝達	
5	4.17	火	1	〃	講	総論：神経伝達	
6	4.17	火	2	〃	講	総論：神経伝達	
7	4.17	火	3	鈴木秀典	講	総論：臨床薬理学	薬物動態学
8	4.17	火	4	〃	講	総論：臨床薬理学	
9	4.19	木	1	〃	講	総論：自律神経系	自律神経系の機能と関与する受容体、一酸化窒素 コリン作動性神経系に作用する薬物（拮抗薬、作用薬）、臨床応用と有害反応、コリンエステラーゼ阻害薬 アドレナリン作動性神経系に作用する薬物（拮抗薬、作用薬）、臨床応用と有害反応
10	4.19	木	2	〃	講	総論：自律神経系	
11	4.19	木	3	〃	講	総論：自律神経系	
12	4.19	木	4	〃	講	総論：自律神経系	
13	4.24	火	1	齋藤文仁	講	中枢神経系	鎮静・睡眠薬、アルコール：GABA、glycine 作動性神経系
14	4.24	火	2	〃	講	中枢神経系	
15	4.24	火	3	〃	講	末梢神経系	局所麻酔薬：Na ⁺ チャネルの構造と機能、構造と作用機序
16	4.24	火	4	〃	講	末梢神経系	
17	4.26	木	1	永野昌俊	講	中枢神経系	全身麻酔薬（吸入麻酔薬と静脈麻酔薬）：作用機序と作用規定因子、悪性過高熱、筋弛緩薬
18	4.26	木	2	〃	講	中枢神経系	
19	4.26	木	3	〃	講	中枢神経系	抗てんかん薬：その種類と作用機序
20	4.26	木	4	池田裕美子	講	中枢神経系	興奮薬：その種類と作用機序
21	5. 1	火	1	小林克典	講	中枢神経系	うつ病・不安症治療薬：中枢のセロトニン作動性神経系、アドレナリン作動性神経系 パーキンソン病治療薬：中枢のドパミン作動性神経系、病態と治療薬 統合失調症治療薬、アルツハイマー病治療薬：中枢のドパミン作動性神経系、アセチルコリン作動性神経系 薬物依存
22	5. 1	火	2	〃	講	中枢神経系	
23	5. 1	火	3	〃	講	中枢神経系	
24	5. 1	火	4	〃	講	中枢神経系	
25	5. 8	火	1	〃	講	中枢神経系	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
26	5. 8	火	2	小林克典	講	中枢神経系	うつ病・不安症治療薬：中枢のセロトニン作動性神経系、アドレナリン作動性神経系 パーキンソン病治療薬：中枢のドーパミン作動性神経系、病態と治療薬 統合失調症治療薬、アルツハイマー病治療薬：中枢のドーパミン作動性神経系、アセチルコリン作動性神経系 薬物依存
27	5. 8	火	3	〃	講	中枢神経系	
28	5. 8	火	4	〃	講	中枢神経系	
29	5.10	木	1	〃	講	中枢神経系	
30	5.10	木	2	池田裕美子	講	中枢神経系	興奮薬：その種類と作用機序
31	5.10	木	3	齋藤文仁	講	心臓・循環系に作用する薬物	心臓に作用する薬物：不整脈治療の標的となるチャンネルと受容体、Ca ²⁺ チャンネルの構造と機能、強心配糖体、Na ⁺ -K ⁺ ATPase
32	5.10	木	4	〃	講	心臓・循環系に作用する薬物	
33	5.15	火	1	永野昌俊	講	心臓・循環系に作用する薬物	高血圧、虚血性心疾患治療薬、慢性心不全：作用部位と作用機序、レニン-アンジオテンシン系、硝酸薬
34	5.15	火	2	〃	講	心臓・循環系に作用する薬物	
35	5.15	火	3	鈴木秀典	講	実習講義	実習説明、実験動物
36	5.15	火	4	〃	講	筋に作用する薬物	筋の収縮機構、薬物と作用機序
37	5.17	木	1	担当教員	演	中間試験	
38	5.17	木	2	〃	演		
39	5.17	木	3	永野昌俊	講	腎臓に作用する薬物	利尿薬：作用部位と作用機序
40	5.17	木	4	〃	講	腎臓に作用する薬物	
41	5.22	火	1	担当教員	演	試験問題解説	
42	5.22	火	2	〃	演		
43	5.22	火	3	浅田 穰	講	血液疾患治療薬	造血因子、貧血治療薬、血液凝固因子、血栓溶解薬
44	5.22	火	4	〃	講	血液疾患治療薬	
45	5.24	木	1	教室員全員	実	臨床薬理学実習	無作為化二重盲検比較試験実習
46	5.24	木	2	〃	実	臨床薬理学実習	
47	5.24	木	3	〃	実	臨床薬理学実習	
48	5.24	木	4	〃	実	臨床薬理学実習	
49	5.24	木	5	〃	実	臨床薬理学実習	
50	5.24	木	6	〃	実	臨床薬理学実習	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
51	5.24	木	7	教室員全員	実	臨床薬理学実習	無作為化二重盲検比較試験実習
52	5.24	木	8	〃	実	臨床薬理学実習	
53	5.29	火	1	〃	実	実習	ローテーション実習（第1回）
54	5.29	火	2	〃	実	実習	
55	5.29	火	3	〃	実	実習	
56	5.29	火	4	〃	実	実習	
57	5.29	火	5	〃	実	実習	
58	5.29	火	6	〃	実	実習	
59	5.29	火	7	〃	実	実習	
60	5.29	火	8	〃	実	実習	
61	5.31	木	1	〃	実	実習	ローテーション実習（第2回）
62	5.31	木	2	〃	実	実習	
63	5.31	木	3	〃	実	実習	
64	5.31	木	4	〃	実	実習	
65	5.31	木	5	〃	実	実習	
66	5.31	木	6	〃	実	実習	
67	5.31	木	7	〃	実	実習	
68	5.31	木	8	〃	実	実習	
69	6.5	火	1	〃	実	実習	ローテーション実習（第3回）
70	6.5	火	2	〃	実	実習	
71	6.5	火	3	〃	実	実習	
72	6.5	火	4	〃	実	実習	
73	6.5	火	5	〃	実	実習	
74	6.5	火	6	〃	実	実習	
75	6.5	火	7	〃	実	実習	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
76	6. 5	火	8	教室員全員	実	実習	ローテーション実習（第3回）
77	6. 7	木	1	〃	実	実習	ローテーション実習（第4回）
78	6. 7	木	2	〃	実	実習	
79	6. 7	木	3	〃	実	実習	
80	6. 7	木	4	〃	実	実習	
81	6. 7	木	5	〃	実	実習	
82	6. 7	木	6	〃	実	実習	
83	6. 7	木	7	〃	実	実習	
84	6. 7	木	8	〃	実	実習	ローテーション実習（第5回）
85	6.12	火	1	〃	実	実習	
86	6.12	火	2	〃	実	実習	
87	6.12	火	3	〃	実	実習	
88	6.12	火	4	〃	実	実習	
89	6.12	火	5	〃	実	実習	
90	6.12	火	6	〃	実	実習	
91	6.12	火	7	〃	実	実習	抗生物質の作用機序
92	6.12	火	8	〃	実	実習	
93	6.14	木	1	鈴木秀典	講	抗生物質	
94	6.14	木	2	〃	講	抗生物質	消化性潰瘍治療薬の標的受容体、ピロリ菌
95	6.14	木	3	〃	講	抗生物質	
96	6.14	木	4	〃	講	消化性潰瘍治療薬	実験結果のまとめ
97	6.14	木	5	教室員全員	実	実習	
98	6.14	木	6	〃	実	実習	
99	6.14	木	7	〃	実	実習	
100	6.14	木	8	〃	実	実習	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標	
101	6.19	火	1	浅田 穰	講	抗ウイルス薬	抗ウイルス薬の作用機序：ヘルペスウイルス感染症治療薬、インフルエンザウイルス感染症治療薬、HIV 感染症治療薬	
102	6.19	火	2	〃	講	抗ウイルス薬		
103	6.19	火	3	教室員全員	実	実習	実験結果のまとめ	
104	6.19	火	4	〃	実	実習		
105	6.19	火	5	〃	実	実習		
106	6.19	火	6	〃	実	実習		
107	6.19	火	7	〃	実	実習		
108	6.19	火	8	〃	実	実習		
109	6.21	木	1	〃	実	実習発表		発表：実習課題
110	6.21	木	2	〃	実	実習発表		
111	6.21	木	3	〃	実	実習発表		
112	6.21	木	4	〃	実	実習発表		
113	6.21	木	5	〃	演	グループ学習	グループ学習	
114	6.21	木	6	〃	演	グループ学習		
115	6.21	木	7	〃	演	グループ学習		
116	6.21	木	8	〃	演	グループ学習		
117	6.26	火	1	永野昌俊	講	免疫薬理	免疫系を修飾する薬物とその作用機構	
118	6.26	火	2	〃	講	免疫薬理		
119	6.26	火	3	浅田 穰	講	抗腫瘍薬	抗腫瘍薬の作用機序と有害反応	
120	6.26	火	4	〃	講	抗腫瘍薬		
121	6.26	火	5	〃	講	抗腫瘍薬		
122	6.26	火	6	鈴木秀典	講	オータコイド	プロスタノイドの機能、プロスタノイド系に作用する薬物 オータコイドとしてのセロトニン、ヒスタミン	
123	6.26	火	7	〃	講	オータコイド		
124	6.26	火	8	〃	講	オータコイド		
125	6.28	木	1	教室員全員	演	グループ学習	グループ学習	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
126	6.28	木	2	教室員全員	演	グループ学習	グループ学習
127	6.28	木	3	〃	講	グループ学習関連講義	
128	6.28	木	4	〃	講	グループ学習関連講義	
129	6.28	木	5	鈴木秀典	講	内分泌・代謝疾患治療薬	ホルモン補充療法、内分泌・代謝疾患治療薬の作用機序
130	6.28	木	6	〃	講	内分泌・代謝疾患治療薬	
131	6.28	木	7	坂井 敦	講	中枢神経系	麻薬性鎮痛薬：オピオイド作動性神経系 非麻薬性鎮痛薬
132	6.28	木	8	〃	講	中枢神経系	
133	7. 3	火	1	鈴木秀典	講	臨床薬理学	臨床薬理学総論
134	7. 3	火	2	〃	講	臨床薬理学	
135	7. 3	火	3	〃	講	薬害問題	薬物有害反応、薬害：事例の提示と検討
136	7. 3	火	4	〃	講	薬害問題	
137	7. 3	火	5	教室員全員	実	実習発表	グループ試問：未知検体
138	7. 3	火	6	〃	実	実習発表	
139	7. 3	火	7	〃	実	実習発表	
140	7. 3	火	8	〃	実	実習発表	

7. その他注意事項

科目名 病理学総論 病理学講座 解析人体病理学、統御機構・腫瘍学

科目責任者： 福田 悠¹、内藤善哉²

担当者： 福田 悠¹、内藤善哉²、土屋眞一²、丹野正隆²、北山康彦²、清水 章¹、大橋隆治¹、寺崎泰弘¹、益田幸成¹、功刀しのぶ¹、石渡俊行²、石井英昭²、工藤光洋²、松田陽子²、細根 勝^{1,2}、山本陽一朗²、石崎正通¹、田村浩一¹、北村博司¹、中山智子¹、横山宗伯²、森 修²、恩田宗彦²

1) 解析人体病理学、2) 統御機構・腫瘍学

1. 学習目標

生命現象の異常状態下での表現である各種疾病について、その原因、発症、進展の様相、転機を諸系統、各種臓器、組織、細胞、およびそれを取りまく諸構成要素などの形態的変化、機能的変化の両面から理解し、さらに疾患に対する治療効果などについても理解することを目的としている。

2. 学習行動目標

- 1) 疾患の基本的病態を系統的に説明出来る。
- 2) 病態の発生機構と関連因子についての説明出来る。
- 3) 病態における臓器、細胞間、細胞・細胞外マトリックス間の相互関係について概説出来る。
- 4) 疾患、病態を観察、解析するための方法と所見を説明出来る。
- 5) 正常、病変、および治療などによる各種修飾変化について概説出来る。
- 6) 臨床系統講義で講義される疾患の病態を概説出来る。
- 7) 病理学分野における重要項目（コアカリキュラム項目）について説明出来る。

3. 評価方法と評価基準

試験、実習のレポートなどにより総合的に評価判定する。

4. 参考図書

人体病理学 (Stevens, Lowe) : 南江堂

組織病理アトラス (飯島、影山、石川、島峰 編) : 文光堂

標準病理学 (秦、坂本穆彦 編) : 医学書院

Anderson's Pathology (Damjanov) : Mosby

Pathology (Robin, Farbered) : Lippincott-Raven

自己評価型 病理学ノート (P. BASS 著、内藤善哉 監訳、他) : 西村書店

よくわかる病理学の基本としくみ (田村浩一 著) : 秀和システム

5. 病理学実習

場所は、大学院棟・地下1階、実習室4・5、A4サイズのスケッチブックと色鉛筆を必ず持参のこと。

6. 授業予定表（全 80 回）

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
1	4. 13	金	1・2	福田 悠	講	序論 (1/1)	序論・病理学とは
2	4. 13	金	3・4	益田幸成	講	細胞の障害・適応・修復 (1/3)	細胞の正常構造と障害
3	4. 17	火	5・6	恩田宗彦	講	代謝障害 (1/3)	糖、蛋白代謝異常、脂質、電解質代謝と形態変化-1
4	4. 17	火	7・8	〃	講	代謝障害 (2/3)	糖、蛋白代謝異常、脂質、電解質代謝と形態変化-2
5	4. 20	金	1・2	清水 章	講	細胞の障害・適応・修復 (2/3)	細胞の増殖、分化、肥大、萎縮、生、再創傷治癒
6	4. 20	金	3・4	〃	講	細胞の障害・適応・修復 (3/3)	細胞の増殖、分化、肥大、萎縮、再生
7	4. 24	火	5・6	工藤光洋	講	代謝障害 (3/3)	糖、蛋白代謝異常、脂質、電解質代謝と形態変化-3
8	4. 24	火	7・8	石崎正通	講	免疫病理 (1/4)	自然免疫と獲得免疫・Leukocyte adhesion deficiency
9	4. 27	金	1・2	〃	講	免疫病理 (2/4)	アレルギー：I～V型アレルギー
10	4. 27	金	3・4	〃	講	免疫病理 (3/4)	自己免疫寛容、自己免疫疾患、免疫不全症
11	5. 1	火	5・6	福田 悠	講	炎症 (1/4)	炎症とは、急性炎症
12	5. 1	火	7・8	〃	講	炎症 (2/4)	慢性炎症
13	5. 8	火	5・6	石渡俊行	実	実習序論	実習序論
14	5. 8	火	7・8	〃	実	代謝性病変	代謝性病変
15	5. 11	金	1・2	清水 章	講	加齢科学病理 (1/2)	加齢病理の概論
16	5. 11	金	3・4	福田 悠	講	炎症 (3/4)	肉芽腫性炎、結核
17	5. 15	火	5・6	大橋隆治	実	非特異性炎	炎症の現場を顕微鏡で見に行く
18	5. 15	火	7・8	〃	実	非特異性炎	〃
19	5. 18	金	1・2	清水 章	講	加齢科学病理 (2/2)	加齢科学の現象
20	5. 18	金	3・4	福田 悠	講	炎症 (4/4)	結核以外の感染症
21	5. 22	火	5・6	松田陽子	実	細胞増殖・創傷治癒	心肥大、前立腺肥大、新鮮な肉芽
22	5. 22	火	7・8	〃	実	細胞増殖・創傷治癒	陳旧な肉芽
23	5. 25	金	1・2	田村浩一	講	循環障害 (1/4)	1. 循環障害とは何か？ まず実際の剖検例をみてみよう 2. 梗塞とはどのようなものか？
24	5. 25	金	3・4	〃	講	循環障害 (2/4)	3. 貧血、虚血とは？ その成り立ちと臓器の障害 4. 血栓、塞栓とは？ その成り立ちを知ろう

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
25	6. 1	金	1・2	福田 悠	講	細胞外マトリックスと疾患 (1/4)	コラーゲンと疾患
26	6. 1	金	3・4	〃	講	細胞外マトリックスと疾患 (2/4)	弾性線維と疾患
27	6. 8	金	1・2	丹野正隆	講	先天異常	個体の発生異常としての先天異常
28	6. 8	金	3・4	〃	講	小児病理	小児病理学 (総論・各論)
29	6. 15	金	1・2	石崎正通	講	免疫病理 (4/4)	腎疾患と免疫
30	6. 15	金	3・4	福田 悠	講	細胞外マトリックスと疾患 (3/4)	マトリックスメタプロテアーゼと疾患
31	6. 22	金	1・2	清水 章	講	移植病理 (1/1)	臓器移植の現状
32	6. 22	金	3・4	〃	講	移植病理 (2/2)	臓器移植の病理
33	6. 29	金	1・2	田村浩一	講	循環障害 (3/4)	5. 充血、うっ血、浮腫について、その成り立ちを知ろう 6. 出血について知ろう
34	6. 29	金	3・4	〃	講	循環障害 (4/4)	7. DIC、ショックとは何か？ 8. 初めにみた剖検例を振り返ってみよう 9. 観察した所見を今までの講義を基にまとめてみよう
35	9. 11	火	5・6	功刀しのぶ	実	循環障害	講義で学んだ循環障害性病変を実際の症例標本でみてみよう
36	9. 11	火	7・8	〃	実	循環障害	〃
37	9. 14	金	1・2	内藤善哉	講	腫瘍 (1/10)	腫瘍、定義、発生母地、増殖、異型性
38	9. 14	金	3・4	〃	講	腫瘍 (2/10)	上皮性腫瘍・非上皮性腫瘍の臨床病理
39	9. 14	金	5・6	土屋真一	講	腫瘍 (3/10)	良性腫瘍と悪性腫瘍の診断・鑑別
40	9. 18	火	5・6	大橋隆治	実	肉芽腫性炎	結核、ハンセン病、リウマチ結節の異同を説明できる
41	9. 18	火	7・8	〃	実	肉芽腫性炎	〃
42	9. 21	金	1・2	横山宗伯	講	運動器 (1/3)	骨・軟部組織の代表的な疾患：非腫瘍性疾患を中心に
43	9. 21	金	3・4	〃	講	運動器 (2/3)	骨腫瘍・腫瘍類似疾患の臨床と病理 (鑑別診断を中心に)
44	9. 21	金	5・6	恩田宗彦	講	皮膚病理 (1/1)	皮膚の組織像と代表的疾患
45	9. 25	火	5・6	寺崎泰弘	実	細胞外マトリックスと疾患 1	コラーゲン異常であるエーラスダンロス症候群の臓器を、正常と比較し、なぜ組織がもろくなるのかを学ぶ
46	9. 25	火	7・8	〃	実	細胞外マトリックスと疾患 1	マルファン症候群で起きた大動脈解離の組織学的変化を
47	9. 28	金	1・2	石渡俊行	講	腫瘍 (4/10)	細胞の増殖と細胞増殖因子

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
48	9. 28	金	3・4	横山宗伯	講	運動器 (3/3)	軟部腫瘍・腫瘍類似疾患の臨床と病理(鑑別診断を中心に)
49	9. 28	金	5・6	内藤善哉	講	腫瘍 (5/10)	腫瘍の疫学と発癌因子
50	10. 2	火	5・6	土屋眞一	実	腫瘍 1	乳頭腫、扁平上皮癌
51	10. 2	火	7・8	〃	実	腫瘍 1	腺腫、腺癌、移行上皮癌
52	10. 5	金	1・2	内藤善哉	講	内分泌 (1/4)	序論、下垂体から副甲状腺
53	10. 5	金	3・4	〃	講	内分泌 (2/4)	膵臓内分泌器官と糖尿病
54	10. 5	金	5・6	山本陽一朗	講	腫瘍 (6/10)	染色体異常と腫瘍
55	10.12	金	1・2	内藤善哉	講	腫瘍 (7/10)	腫瘍発生と遺伝子異常
56	10.12	金	3・4	清水 章	講	腎臓・泌尿器 (1/2)	糸球体腎炎、全身性疾患、代謝性疾患、血管性病変に伴う腎疾患
57	10.12	金	5・6	〃	講	腎臓・泌尿器 (2/2)	〃
58	10.26	金	1・2	内藤善哉	講	腫瘍 (8/10)	腫瘍と再生・増殖
59	10.26	金	3・4	中山智子	講	細胞外マトリックスと疾患 (4/4)	肺気腫と肺線維症の病態と臨床的事項
60	10.26	金	5・6	寺崎泰弘	実	細胞外マトリックスと疾患 2	弾性線維障害による肺気腫、コラーゲン異常沈着による肺線維症(通常型間質性肺炎)の成り立ちを検索する
61	10.26	金	7・8	〃	実	細胞外マトリックスと疾患 2	〃
62	11. 2	金	1・2	北山康彦	講	内分泌 (3/4)	副腎の病理
63	11. 2	金	3・4	〃	講	内分泌 (4/4)	甲状腺の病理
64	11. 2	金	5・6	〃	実	内分泌	下垂体腺腫、バセドウ病性甲状腺腫
65	11. 2	金	7・8	〃	実	内分泌	亜急性甲状腺炎、橋本甲状腺腫、副腎皮質腺腫、褐色細胞腫
66	11. 9	金	1・2	松田陽子	講	腫瘍 (9/10)	癌と薬剤耐性
67	11. 9	金	3・4	石渡俊行	講	腫瘍 (10/10)	腫瘍細胞の増殖と cell cycle
68	11. 9	金	5・6	石井英昭	実	腫瘍 2	骨腫瘍・腫瘍類似疾患の病理組織像の見方
69	11. 9	金	7・8	〃	実	腫瘍 2	軟部腫瘍・腫瘍類似疾患の病理組織像の見方
70	11.16	金	1・2	細根 勝	講	造血器 (1/2)	造血器疾患概論、赤血球系の異常(貧血と赤血球増多)・白血球系の異常(白血病を中心に)
71	11.16	金	3・4	〃	講	造血器 (2/2)	リンパ節の腫瘍(リンパ腫を中心に)

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
72	11.16	金	5・6	細根 勝	実	造血器	脂質代謝障害の脾、リンパ腫
73	11.16	金	7・8	〃	実	造血器	ホジキン病、白血病、形質細胞腫
74	11.30	金	1・2	大橋隆治	実	泌尿器1	一次性糸球体疾患の実習
75	11.30	金	3・4	〃	実	泌尿器1	(急性糸球体腎炎、管外増殖性糸球体腎炎、膜性腎症など)
76	11.30	金	5・6	北村博司	実	泌尿器2	全身性疾患、代謝性疾患、血管性病変に伴う腎疾患の実習
77	11.30	金	7・8	〃	実	泌尿器2	(ループス腎炎、糖尿病性腎症、腎アミロイドーシスなど)
78	12.7	金	3・4	森 修	講	中枢神経 (1/1)	中枢神経概論 (染色法、疾患による特徴的所見)
79	12.7	金	5・6	〃	実	中枢神経	各種染色法と実際 (含 KB 染色、Bodian 染色)
80	12.7	金	7・8	〃	実	中枢神経	〃

7. その他注意事項

科目名 法医学

科目責任者： 大野 曜 吉

担当者： 大野 曜 吉、林 田 眞喜子、長谷場 健、真 下 啓 子、富 田 ゆかり、
平 川 慶 子、佐 藤 喜 宣 (杏林大)、山 本 伊 佐 夫 (神歯大)、
早 川 秀 幸 (筑波剖検センター)、他教室員全員

1. 学習目標

法医学は「法律に関係のある医学的問題を研究し応用する医学部門」であり、基礎医学ではなく、社会医学に属し、具体的問題を対象として社会活動をしなければならない立場にある。

一方、臨床医は、法医学の専門家以上に、法医学的問題を日常取り扱っていることは間違いないところである。したがって、法治国家における臨床医は全て法医 (Forensic pathologist, Medicolegist) でもあるべきである。

そこで、法医学の講義・実習を通して、医師として必要な法医学的知識、思考方法を理解し、将来、死体検案などの場面だけでなく、日常の診療などにおいても応用可能な問題解決能力を身につけることを目標とする。

2. 学習行動目標

- 1) 法医学の扱う分野について理解し、法医鑑定や司法解剖の目的と手続きについて説明できる。
- 2) 死の定義について説明できる。脳死からの臓器移植における法医学の役割と問題点を議論できる。
- 3) 検屍制度の地域差と監察医制度について説明できる。
- 4) 死体現象とその記録の重要性について理解し、死後経過時間推定の方法を説明できる。
- 5) 直腸温降下曲線法による死後経過時間推定法の原理を説明できる。
- 6) 窒息の重要性を理解し、縊頸・絞頸・扼頸の別、自他為の別などを判断するための知識を獲得する。
- 7) 水中死体、溺水による死亡における法医学的問題点を理解する。溺水の証明について説明できる。
- 8) 創傷の定義と分類、創傷に対する正しい観察と記録、成傷器の推定の重要性を理解し、説明できる。
- 9) 頭部損傷の分類と特徴を理解し、法医学的問題点を説明できる。
- 10) 交通死亡事故の取り扱いと、交通事故損傷と事故再現の重要性を認識し、説明できる。
- 11) 内因性急死の原因となる主要な疾患を知り、乳幼児の急死の実態と問題点について説明できる。
- 12) 焼死体の検査法と法医学的重要性を理解し、一酸化炭素中毒について説明できる。
- 13) 熱射病、感電について理解し、熱中症の危険性を説明できる。
- 14) 刑事弁護における法医学の役割を理解できる。
- 15) 血液型について、赤血球型、唾液型とルイス式血液型の関係、血清型、赤血球酵素型、HLA 型、DNA 型の種類と検査方法、法医学的利用を理解し、ABO 式などの基本的な検査が行える。
- 16) 血痕鑑定の実習をとおして、血痕予備試験から血液型検査までの筋道を理解し、鑑定書のあるべき書式と重要性を指摘できる。

- 17) 血液型と刑事鑑定についてその問題点を指摘できる。
- 18) 個人識別における指紋・掌紋の重要性と分類方法、その他の個人識別の手法を理解できる。指紋・掌紋を採取し、分類できる。
- 19) 毛髪肉眼的、顕微鏡的検査を行い、個人識別の難しさや重要性を指摘できる。
- 20) 大量死亡事故における歯科的所見による個人識別の実際を説明できる。
- 21) 急性中毒の現状と法医学的問題点を指摘できる。
- 22) 医薬品・農薬・覚醒剤など中毒物質の分類について説明できる。
- 23) 法医学、救急医学領域での薬毒物機器分析体制確立の現状を理解し、機器分析の原理と実際をある程度説明できる。
- 24) 簡便な中毒物質スクリーニング法の原理を理解し、実施できる。ある程度の機器分析を実施できる。
- 25) エタノールのもたらす急性・慢性症状を理解し、社会医学としての立場から飲酒行動を考察できる。
- 26) トリカブト事件、ロザール事件、保険金請求事件などの実際例をとおして、法医鑑定の重要性と問題点を指摘できる。また、法医学の民事・刑事・社会的役割を説明できる。
- 27) 児童虐待の実態と社会医学的問題点を指摘できる。
- 28) 頭蓋骨検査、皮膚創傷の記録と成傷器の推定をとおして、適切な創傷や歯牙所見の記録ができる。

4年生（2013年）

- 1) 死亡診断書、死体検案書を適切に記載・発行できる。

3. 評価方法と評価基準

実習の出席は必須とする。また、講義に際しては出欠を取る。その上で試験により評価する。評価区分は学則に定める。

4. 参考図書

現代の法医学 金原出版

臨床法医学テキスト 中外医学社

Forensic Pathology ARNOLD

5. 授業予定表（全 47 回）

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
1	4. 11	水	1・2	大野 曜吉	講	総論・法医鑑定	法医学の取り扱う分野について理解し、法医鑑定や司法解剖の目的と手続きについて理解を得る。
2	4. 13	金	5・6	〃	講	死と脳死	死の定義と脳死からの臓器移植における法医学の役割と問題点、検屍制度の地域差と監察医制度について理解する。
3	4. 18	水	1・2	〃	講	早期死体現象	早期死体現象を理解し、死体現象の記録の重要性について理解する。
4	4. 20	金	5・6	〃	講	死後経過時間推定	直腸温降下曲線法による死後経過時間推定法の原理を理解し、死後経過時間推定の重要性を理解する。
5	4. 25	水	1・2	真下 啓子	講	血液型 (1) 赤血球膜抗原型	血液型研究の歴史、抗原と抗体、赤血球凝集反応、各種赤血球型。
6	4. 27	金	5・6	大野 曜吉	講	晩期死体現象	晩期死体現象と永久死体、白骨の検査の方法・意義を理解し、腐敗進行による死亡時期推定の困難さと個人識別の重要性を理解する。
7	5. 2	水	1・2	〃	講	窒息・頸部圧迫	死因論としての窒息の重要性を理解し、縊頸・絞頸・扼頸の別、自他為の別などを判断する最低限の知識を理解する。
8	5. 9	水	1・2	真下 啓子	講	血液型 (2) 体液型・ルイス型、精液検査	分泌・非分泌型と Lewis 型についてその関係を理解する。体液型、精液検査について理解する。
9	5. 11	金	5・6	大野 曜吉	講	溺水	水中死体、溺水による死亡における法医学的問題点を理解し、解剖における溺水の証明方法を理解する。
10	5. 16	水	1・2	富田ゆかり	講	血液型 (3) 血清型・赤血球酵素型	血清型、赤血球酵素型について、その種類と検査方法、法医学的応用。
11	5. 18	金	5・6	大野 曜吉	講	創傷と成傷器	創傷の定義と分類を理解し、創傷に対する正しい観察と記録、それによる成傷器の推定の重要性を理解する。
12	5. 23	水	3・4	林田真喜子	講	血液型 (4) HLA 型	HLA 型について解説し、理解を深めると共に、法医学的応用を解説する。
13	5. 25	金	5・6	大野 曜吉	講	頭部損傷	頭部損傷の分類を理解し、損傷の多様性と重要性を認識する。
14	5. 30	水	3・4	長谷場 健	講	血液型 (5) DNA 型	種々の DNA 型についてその原理と検査方法を理解する。
15	5. 30	水	5・6	大野 曜吉	講	交通死亡事故	法医学における交通死亡事故の取り扱いの現状と目的を理解し、交通事故損傷と事故再現の重要性を認識する。
16	6. 1	金	5・6	長谷場 健	講	親子鑑定と血痕鑑定の基礎	血痕鑑定について予備試験から DNA 型まで検査法と考え方を解説する。また、民事における親子鑑定を理解する。
17	6. 13	水	3・4	佐藤 喜宣	講	児童虐待と臨床法医学	社会問題となっている児童虐待に対し、地域の中核病院として取り組んでいる杏林大学の活動を紹介する。
18	6. 13	水	5・6	長谷場 健	講	血痕鑑定と刑事裁判	刑事裁判における血痕鑑定 (DNA 型鑑定) の問題点を指摘する。
19	6. 15	金	5・6	大野 曜吉	講	感電・熱射病	熱や電気による特殊な死亡について事例を供覧し、理解を深める。
20	6. 20	水	3・4	山本伊佐夫	講	法医歯科学	大量死亡事故における歯科的所見による個人識別の実際を理解する。

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
21	6. 22	金	5・6	大野曜吉	講	内因性急死	成人の急死の原因となる疾患を事例によって理解する。また、SIDSなど乳幼児の急死の実態と問題点について理解する。
22	6. 27	水	3・4	早川秀幸	講	法医画像診断	死後のCT, MRI等の画像診断の実際と問題点を理解する。
23	6. 29	金	5・6	大野曜吉	講	法医鑑定例紹介	鑑定事例を紹介して、法医学の刑事・社会的な役割について認識する。
24	9. 11	火	3・4	林田眞喜子	講	法医中毒学(1) 総論・医薬品	急性中毒の現状と法医学的問題点を理解する。また、各論として医薬品による中毒の実際を理解する。
25	9. 18	火	3・4	〃	講	法医中毒学(2) 農薬・覚醒剤、機器分析	急性中毒物質としての農薬の分類、覚醒剤や他の不法薬物の実態について理解する。また、機器分析体制の現状を理解する。
26	9. 25	火	3・4	長谷場 健	講	法医中毒学(3) エタノール中毒	エタノールのもたらす急性・慢性症状を理解し、社会医学としての立場から飲酒行動を考察する。
27	10. 2	火	3・4	平川慶子	講	法医中毒学(4) その他の毒物と薬毒物実習の説明	農薬・薬物以外の毒物について、主なものを紹介する。実習について説明する。
28	10.10	水	3・4	大野曜吉	講	焼死とCO中毒、硫化水素事故	焼死体の法医学的検査法と重要性を認識するとともに一酸化炭素中毒などのガスによる事件・事故の実態を理解する。
29	10.11	木	1・2	教室員全員	実	薬毒物分析	青酸・パラコート・一酸化炭素・医薬品・エタノール・トルエンなどを、簡便な呈色反応から分光光度計、HPLC, GC、質量分析等を用いた高度の機器分析に至る薬毒物分析の原理と実際を、実習を通じて理解する。
30	10.11	木	3・4	〃	薬毒物分析		
31	10.11	木	5・6	〃	薬毒物分析		
32	10.11	木	7・8	〃	薬毒物分析		
33	10.17	水	3・4	大野曜吉	講	民事裁判と法医鑑定	民事事件、とくに保険金を巡ってのいくつかの鑑定例を紹介し、法医学の民事事件への役割を理解する。
34	10.18	木	1・2	教室員全員	実	血液型検査	実際に血液を採取し、自分の血液についてABO式、MNSs式、Rh-Hr式等の検査を行い、ABO式の表と裏試験の原理を理解し、血液型の検査と意義について理解を深める。
35	10.18	木	3・4	〃	血液型検査		
36	10.18	木	5・6	〃	実	唾液型・体液斑検査	唾液からのABO式の判定を行い、全身型としてのABO式血液型を理解し、Se・se式とLewis式との関係を理解する。また、精液・唾液の検査の証明法を実習する。
37	10.18	木	7・8	〃	実	唾液型・体液斑検査	
38	10.24	水	3・4	富田ゆかり	講	指掌紋・毛髪	指紋・掌紋の分類方法、法医学的利用、毛髪の法医学的利用について理解する。
39	10.25	木	1・2	教室員全員	実	指紋・掌紋検査	自分の指紋・掌紋をじっくりと観察することによって個人識別の重要性や人体の巧妙さを実感する。
40	10.25	木	3・4	〃	実	指紋・掌紋検査	

回数	月日	曜日	時限	担当者	授業形式	タイトル	授業内容と学習目標
41	10.25	木	5・6	教室員全員	実	毛髪検査, 頭蓋骨検査	毛髪の肉眼的、顕微鏡的検査を通じて、個人識別の難しさや重要性を理解する。頭蓋骨検査、歯牙所見記録の方法を身につける。
42	10.25	木	7・8	〃	実	毛髪検査, 頭蓋骨検査	
43	10.31	水	3・4	大野 曜吉	講	トリカブト事件	トリカブト事件の全容を解説し、トリカブト等の自然毒についての知識を得るとともに、法医鑑定の重要性を認識する。
44	11. 1	木	1・2	教室員全員	実	血痕鑑定	与えられた血痕付着の鑑定資料から実際に、血痕予備試験、本試験、ヒト血液確認試験、ABO 型判定の解離試験を行う。その結果を鑑定書の形式でまとめ、実際の血痕鑑定の問題点を理解する。
45	11. 1	木	3・4	〃	実	血痕鑑定	
46	11. 1	木	5・6	〃	実	血痕鑑定	
47	11. 1	木	7・8	〃	実	血痕鑑定	

6. その他参考事項

本年の実習は全日 4 回なので、原則として欠席は認めない。

希望者による司法解剖の見学が毎週火曜日、随時可能である。詳細は講義の際に紹介する。

なお、4 年で以下の講義・実習がある。

4 年生 (2013 年)

- 1) 死亡診断書・死体検案書 講義・実習 (6 時限)

死亡診断書、死体検案書の書き方の講義および実習を行う。